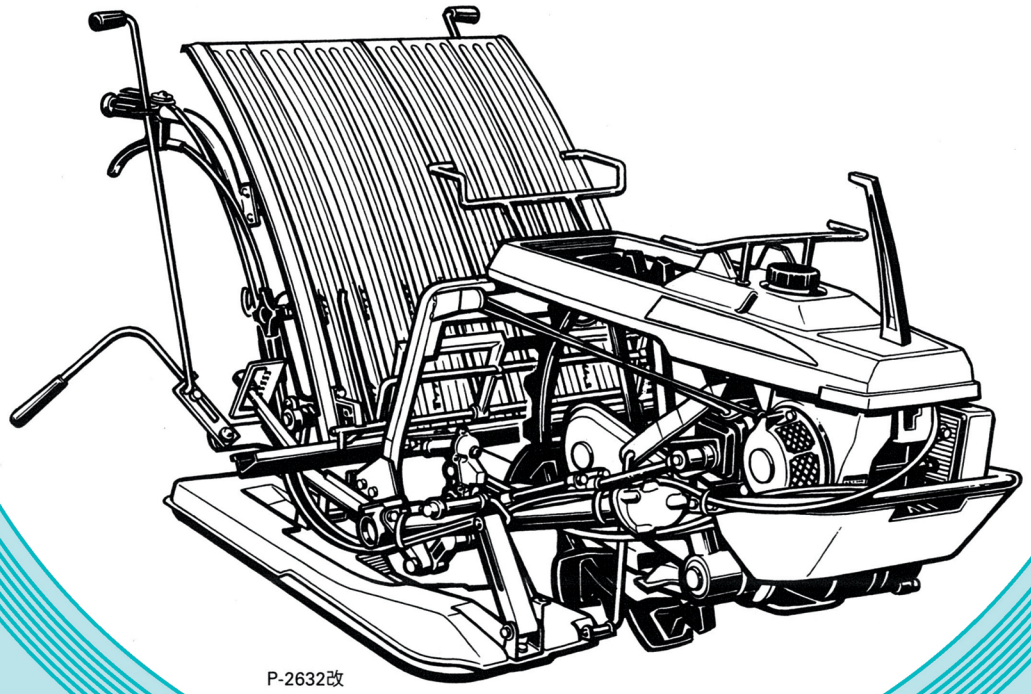
クボタ歩行田植機

取扱説明書

JoyWalk

JP1



P-2632改

Operator's Manual

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

専門用語の説明

車輪クラッチレバー ・・・・・・・・・ レバーを握るとロックされ，機体が停止し，ロックを解除すると走行します。
油圧操作レバー【HD仕様】 ・・ 機体の上昇・下降・固定を操作するレバーです。
車輪調節ハンドル【D仕様】 ・・ ハンドルを回転させることにより機体を**“上昇”**，**“下降”**させます。
植付けクラッチレバー ・・・・・・・ 植付け部の作動・停止を操作するレバーです。
変速切換えレバー ・・・・・・・・・・ 機体の移動速度を**“高速”“低速”**どちらかに切換えるレバーです。
スロットルレバー ・・・・・・・・・・ エンジンの回転を調節します。
後ろマーカ【HD仕様】 ・・・・・・ 植付け作業中に隣接条間を合わすための目標となる線を引くための部分です。
フロート ・・・・・・・・・・・・・・・・・ ほ場表面に浮き，機体を支える部分です。
ナエキーパ ・・・・・・・・・・・・・・・ 苗こぼれによるバラケ，浮苗を防止するための金具です。
安全クラッチ ・・・・・・・・・・・・・・ 植付け爪に障害物が詰まったとき，動力伝達ギヤーの破損を防止するために，植付け部への動力を断つ装置です。
ボンネット ・・・・・・・・・・・・・・・ 機体前部にあるエンジンを覆っている樹脂のカバーです。

はじめに

このたびはクボタ製品をお買いあげいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買上げの製品が秀れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。なお，製品の仕様変更などにより，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

PC001-9151-1(カラー)

■注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **警　告**：　注意事項を守らないと，死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ **注　意**：　注意事項を守らないと，けがを負うおそれのあるものを示します。

重　要：　注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補　足：　その他，使用上役立つ補足説明を示します。

目　次

⚠安全に作業するために..... ⚠-1

サービスと保証について 1
ご相談窓口 1
補修用部品の供給年限について 1

各部の名称と装置の取扱い 2
各部の名称 2
装置の取扱い 3
取扱い作業のポイント 6

作業前の点検について 7
始動前の給油と注油 7

上手な運転のしかた 11
エンジンの始動と停止 11
移動走行 13
トラックへの積込み・積降ろし 14
ほ場への出入り 14

上手な植付けのしかた 15
田植え作業のほ場と苗の条件 15
田植え作業前の準備 16
植付け作業のしかた 18

田植機の簡単な手入れと処置 24
各部の点検と交換 24
作業シーズン前後のメンテナンス 25
各部の調整 26
毎日作業前 27
20時間目 27
50時間毎 27
２年毎 28
都度の整備 29

長期格納時の手入れ 30

田植機の不調と処置 31

付表 34
主要諸元 34
主な消耗部品一覧表 35
付属部品 35
オプション部品 36
クボタ純オイル 36

安全に作業するために

必ず読んでください。

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業していただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

1．安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください。

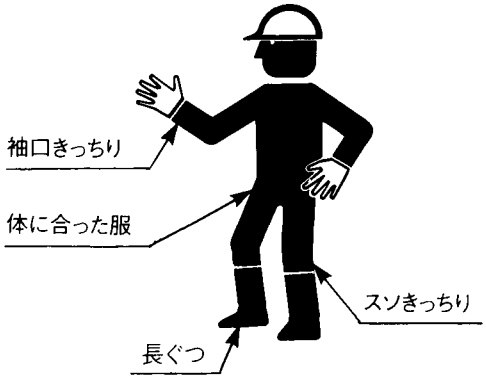
安全指示順序

- 本書および機械の警告，注意ラベルをよく読み理解してください。
- 警告，注意ラベルはいつもきれいにしておいてください。
  また，破損・紛失したときは発注して再度貼付けてください。
- 正しい運転，作業法を覚えてください。
- 製品を勝手に改造しないでください。安全性を損ったり，機能や寿命低下の原因になります。
- 本書記載事項以外についても安全には細心の注意を払ってください。

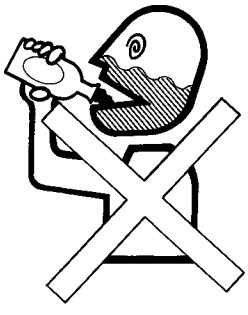
M-6215

作業に合った服装及び健康状態

- 作業に合ったキチンとした作業服を着用してください。だぶついたズボン，上着などは回転部にまきこまれやすく危険です。
- 素足での作業は絶対にしないでください。安全な長ぐつなどを着用してください。
- 飲酒，過労などでの作業は危険ですのでしないでください。



P-3010

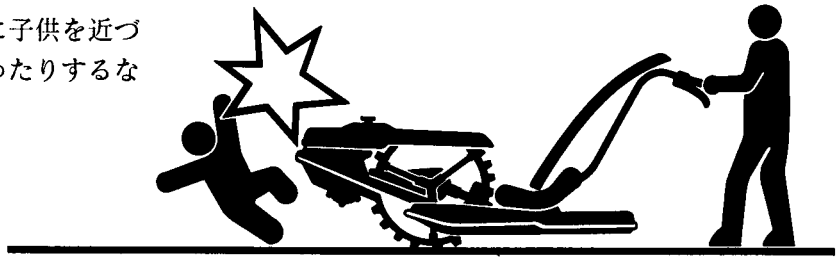


P-3009

⚠ 安全に作業するために

子供に注意

点検・調整時および機械の移動時は，機械に子供を近づけないでください。いきなり駆動部にさわったりするなど，傷害事故の原因になります。

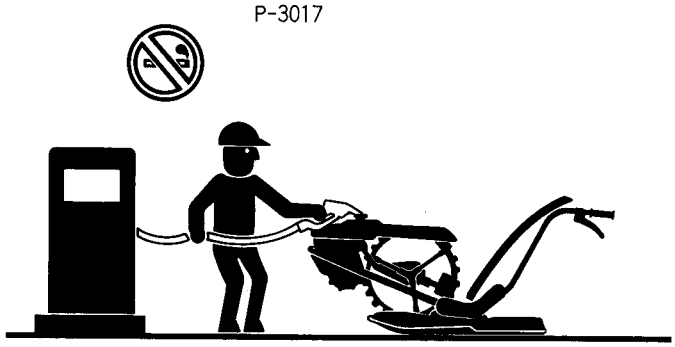


P-3019

使用前の準備・点検

- 使用前には7ページの点検項目を実施してください。異常があれば直してから運転してください。
- 燃料の給油・オイル交換・注油・機械の点検は，各クラッチを切り，エンジンを止めてから行なってください。
- 燃料の補給は，エンジンを止め，エンジンが冷えてから行なってください。
  火気厳禁です。
- 点検・調整などで取外した部品は，必ず元の位置に取付けてから作業してください。
- 点検・調整などのときは，平坦な場所で機体を下げた状態にして作業してください。

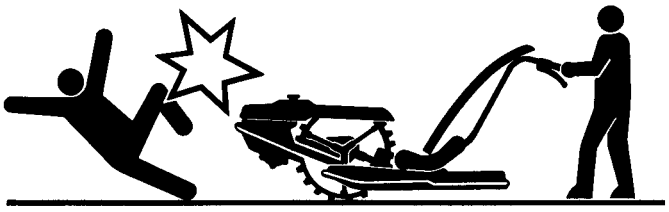
P-3017



P-3018

エンジンの始動

- 機械を動かす場合，周囲の安全に気を付けてください。
- エンジンを始動するときは，各クラッチを**“切”**にして行なってください。
- スタータハンドルを引張る前に，手が人や物に当たらないよう注意してください。
- エンジンの始動や機械の発進のときは，周囲の安全を十分に確認し合図をして，人を機械に近づけないでください。
- 屋内で始動するときは，窓・扉を開け，外気が十分に入るようにしてください。



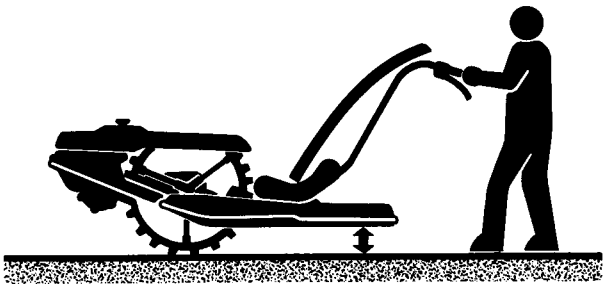
P-3020

F-8842

走行運転

- この機械は，一般道路は走れません。
- 一般道路はトラックに積むなど別の運送方法で移動してください。
- フロートと地面の間に十分な間隔をとり，機械が地面と接触しないよう走行してください。
  機械の周囲の人・物に注意して低速で発進してください。
- 初めて運転される方は，操作に慣れるまで低速で運転してください。
- 予備苗のせ台の上などに物を乗せないこと。荷物は，めんどうでも，別にトラックなどで運搬してください。
- わき見運転はしないこと。気のゆるみが大事故につながります。
- 後ろマーカは必ず収納し，苗のせ台は機体中央位置にして走行してください。

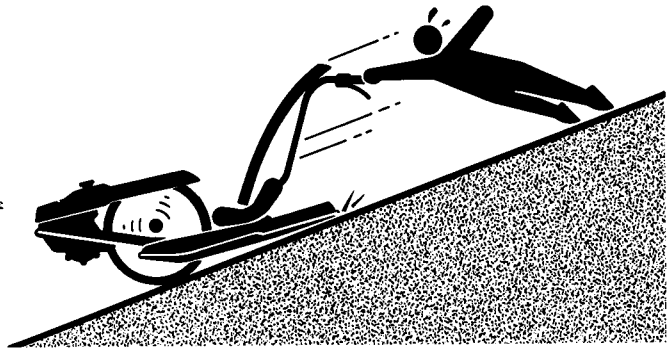
P-3021



P-3022

坂道走行

- 坂道では絶対に車輪クラッチレバーを操作しないでください。
  動力伝達が切れ，機械が急降下し大事故につながります。
- 坂道での駐・停車は行わないでください。やむをえず駐・停車するときは，車輪に車止めをしてください。

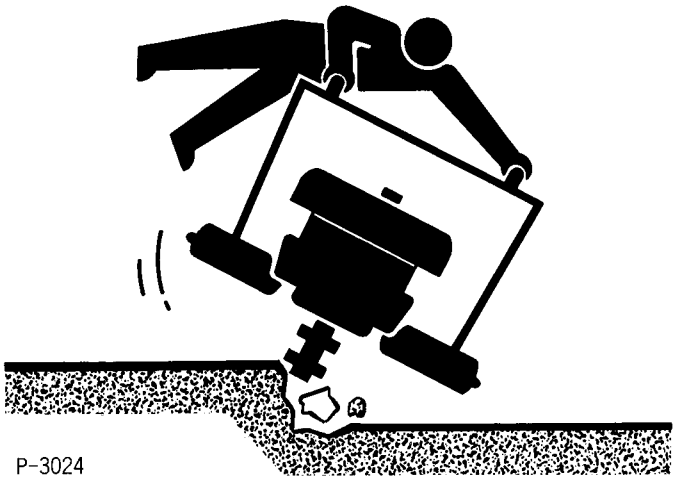


P-3025

▲ 安全に作業するために

農道の移動

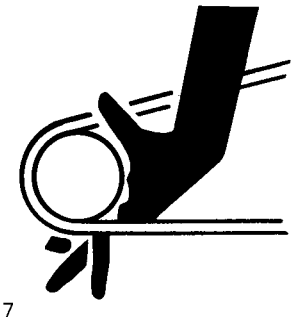
- 機体を十分上げて，ゆっくり走行してください。
- 路肩くずれに注意してください。
- 雨あがりのとき，狭い農道では，速度をおとして慎重に走行してください。
- 対向車をさけるときは，無理に端いっぱいに寄らず，一端停止して対向車をやりすごしてください。
- 後ろマーカを折りたたみ苗のせ台は機体中央位置で走行してください。
- 周囲の障害物に接触しないよう，ゆっくりと運転してください。



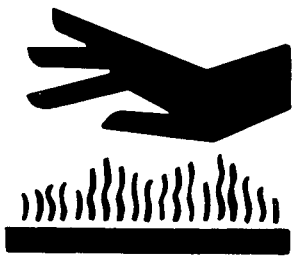
P-3024

ほ場での作業

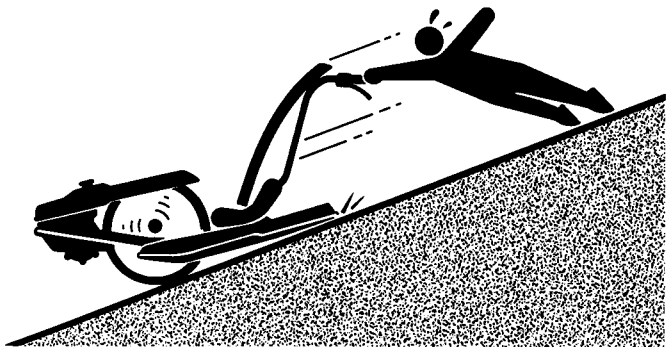
- 異常に気付いたらすぐに各クラッチを切り，エンジンを止めてください。
- 回転部分・作動部分・高温部に触れないように注意してください。
- 植付け爪にはさまった小石などを除くときは，必ず車輪クラッチ・植付けクラッチを切り，エンジンを止めてから行なってください。
- スタータハンドルを引くときは，片手で機械を支えてバランスを取ってください。
- 植付け作業時は，ハンドルを両手で握り，決して片手運転はしないでください。
- あぜ際で旋回するときは，あぜの周囲の人や物に十分注意してください。
- 次のような場合は植付けクラッチを切ってください。
  - ほ場内外へ移動するとき
  - 旋回するとき
  - 苗のせ台に苗を補給するとき(このときは車輪クラッチも切ってください)
- 作業中は，ほ場に人を入れたり，機械に人を近付けたりしないでください。
- ほ場への出入りの場合は，機体のバランスとスピードに十分注意して，必要な場合にはアユミ板を使ってください。
  また，途中で車輪クラッチを切らないでください。機械が急降下して大変危険です。



J-2717



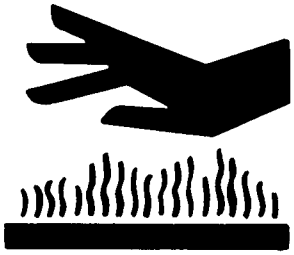
B-1502



P-3025

機械から離れるとき及び走行の作業途中の駐車・点検

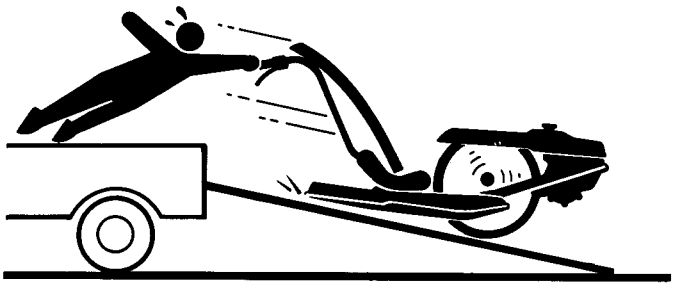
- 作業時，機械から離れたり点検するときは，各クラッチを切ってエンジンを止めてください。
- やけどのおそれがあるのでエンジン，マフラ，配気管などの高温部に触れないように注意してください。



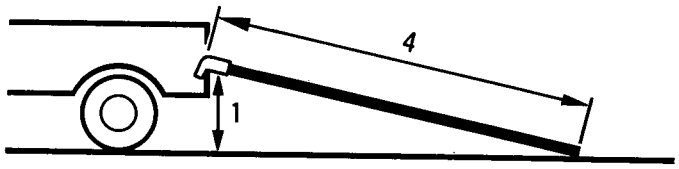
B-1502

トラックへの積込み・積降ろし

- 積込み・積降ろしは平坦な場所で行なってください。
- 積込み又は積降ろしを開始する前に，トラックのサイドブレーキがかかっているかを確認してください。
- アユミ板は十分に強く滑り止めがあり，トラックの荷台高さ“1”に対しアユミ長さ“4”以上のものを使用してください。
- アユミ板の途中では，絶対に車輪クラッチを切らないでください。機体が急降下して大変危険です。



P-3025改
P-3026改

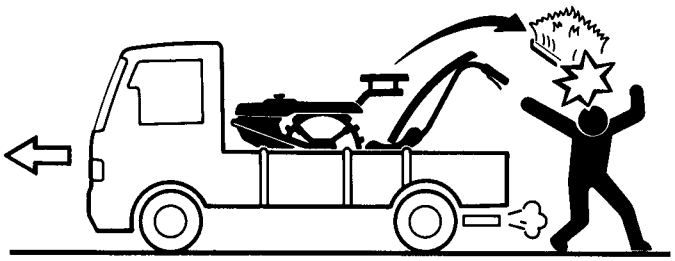


P-3026

⚠ 安全に作業するために

トラックでの運搬

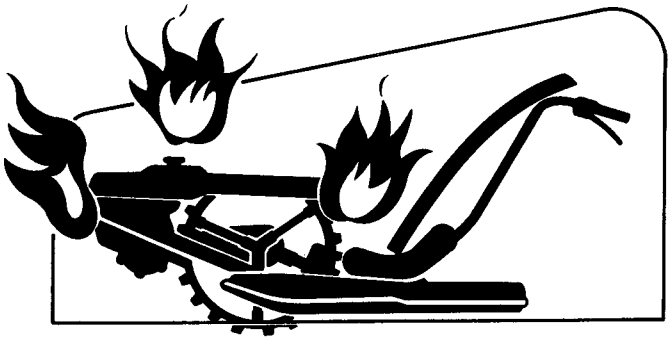
- トラックの荷台上では，機体を下げた状態で運搬してください。
- 運搬するときは必ず機体をロープで固定してください。
- 運送中は，不必要な急発進・急停止・急ハンドルはしないでください。
- 苗のせ台・予備苗台などにのせてある物は，必ず降ろしておいてください。



P-3023

使用後の手入れ・その他

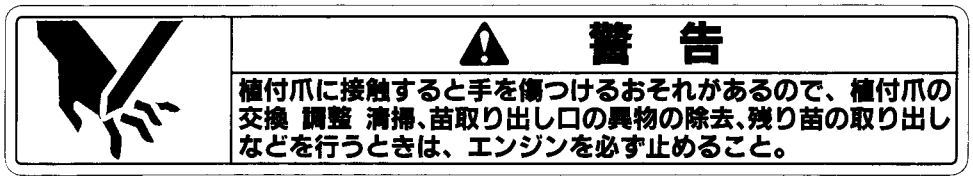
- 点検・手入れ・掃除・調整は，エンジンを止めて行なってください。
- 格納するときは，平たんな場所で機体を下げた状態で置いてください。
- シートなどをかける場合は，エンジンなど加熱部分が十分冷えてからにしてください。火災の原因になります。
- 機械の改造は絶対にしないでください。故障や事故の原因になり大変危険です。
- 田植機を人に貸すときは，取扱説明書を読んでいただくと共に，安全な作業ができるよう十分に指導してあげてください。
- 夜間は暗くて危険なので作業はしないでください。

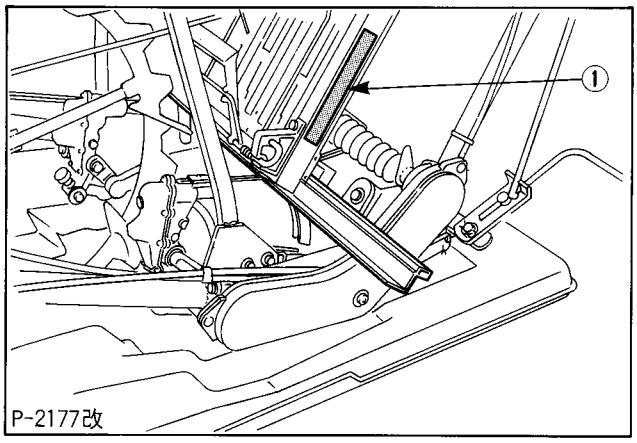


P-3011

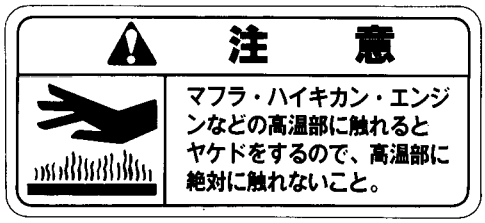
2．⚠表示ラベルと貼付け位置

①品番　PA401－8943－1

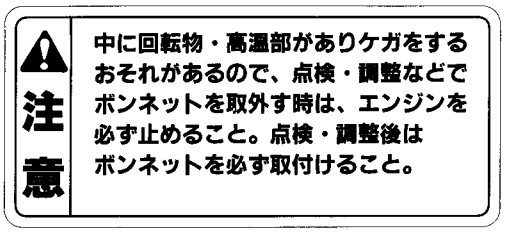


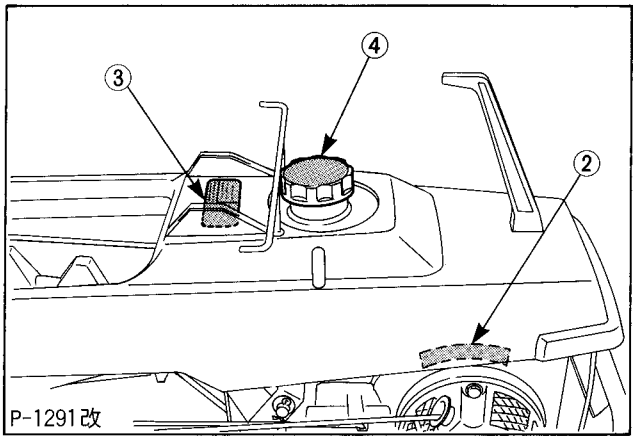


②品番　52320－3159－1



③品番　PC200－8911－1





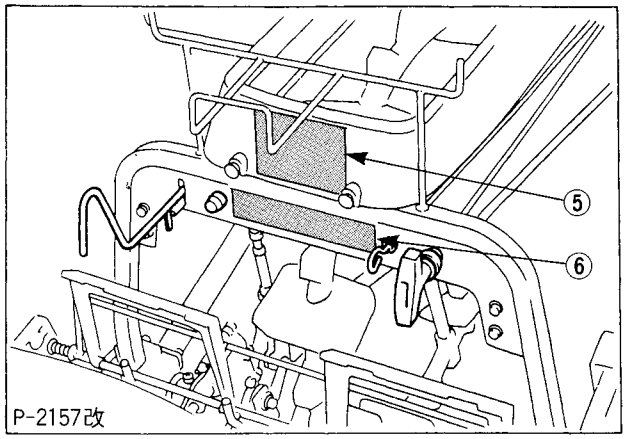
④品番　50080－1689－2

▲ 安全に作業するために

⑤品番　PC100－8982－1

▲ 注意

1. 安全作業のため取扱説明書をよく読むこと。
2. ガス中毒防止のため屋内では換気をすること。
3. この機械は公道走行はできないため、移動はトラックなどにのせて運搬のこと。
4. けが防止のため、機械から離れるとき、及び各部の点検・調整などのときは、各クラッチを切り、エンジンを必ず止めること。
5. 夜間は暗くて危険なので、作業はしないこと。
6. 転落・転倒事故防止のため、傾斜地や不安定な場所での駐・停車はしないこと。
7. 安全クラッチが作動したら、すぐに車輪クラッチ・植付クラッチを切りエンジンを止めて、植付爪先端の障害物を取除くこと。



⑥品番　41272－8918－4

スエトンッジプン

油圧操作	
植付	
固定エンジン始動	
上昇	

▲ 注意

エンジン始動時は、必ず車輪クラッチレバー、植付クラッチレバーを握って「切」にしておくこと。

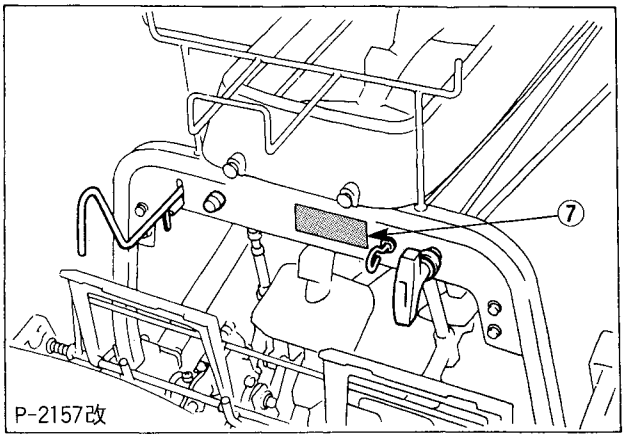
チョーク

⑦品番　41392－8917－2

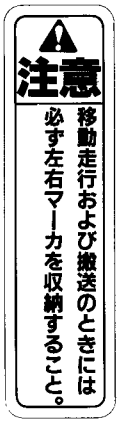
▲ 注意

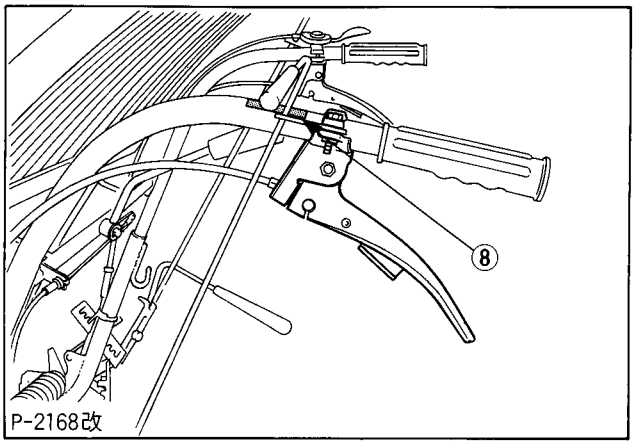
エンジン始動時は、必ず車輪クラッチレバー、植付クラッチレバーを握って「切」にしておくこと。

チョーク



⑧品番　PC400－8944－1





3．⚠表示ラベルの手入れ

(1)ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
　もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
(2)高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剝がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
(3)破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
(4)新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。
(5)ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ**“ご相談窓口”**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。

その際　(1)型式名・区分と製造番号
　　(2)搭載機関の型式名と機関番号
をあわせてご連絡ください。

なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警　告

＊機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

◆安全鑑定適合番号

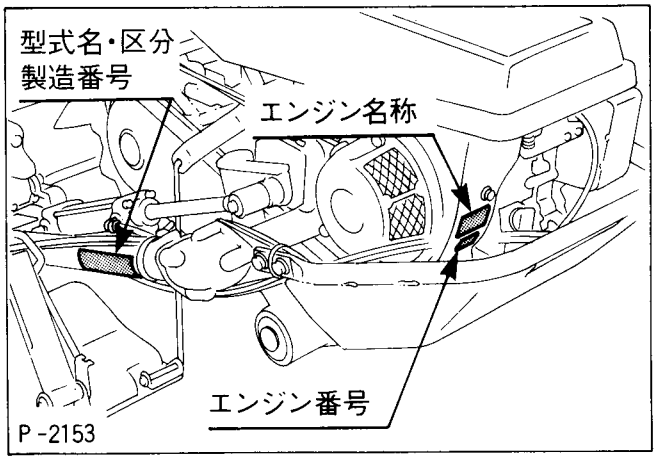
クボタSP-1 …… 19034

■補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期限)は製造打ち切り後９年といたします。

ただし，供給年限内であつても特殊部品につきましては，納期などについてご相談させていただく場合もあります。

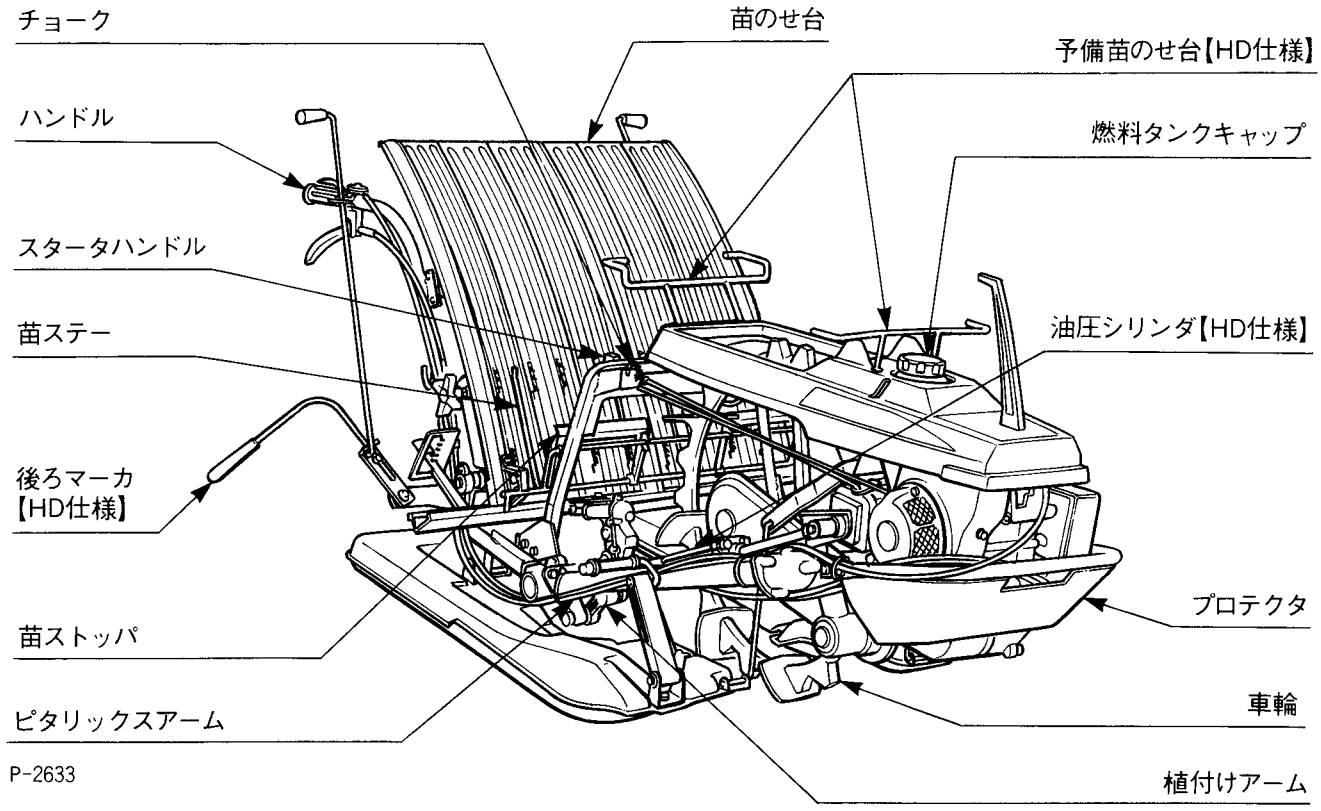
補修用部品の供給は原則的には上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であつても部品供給のご要請があつた場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。



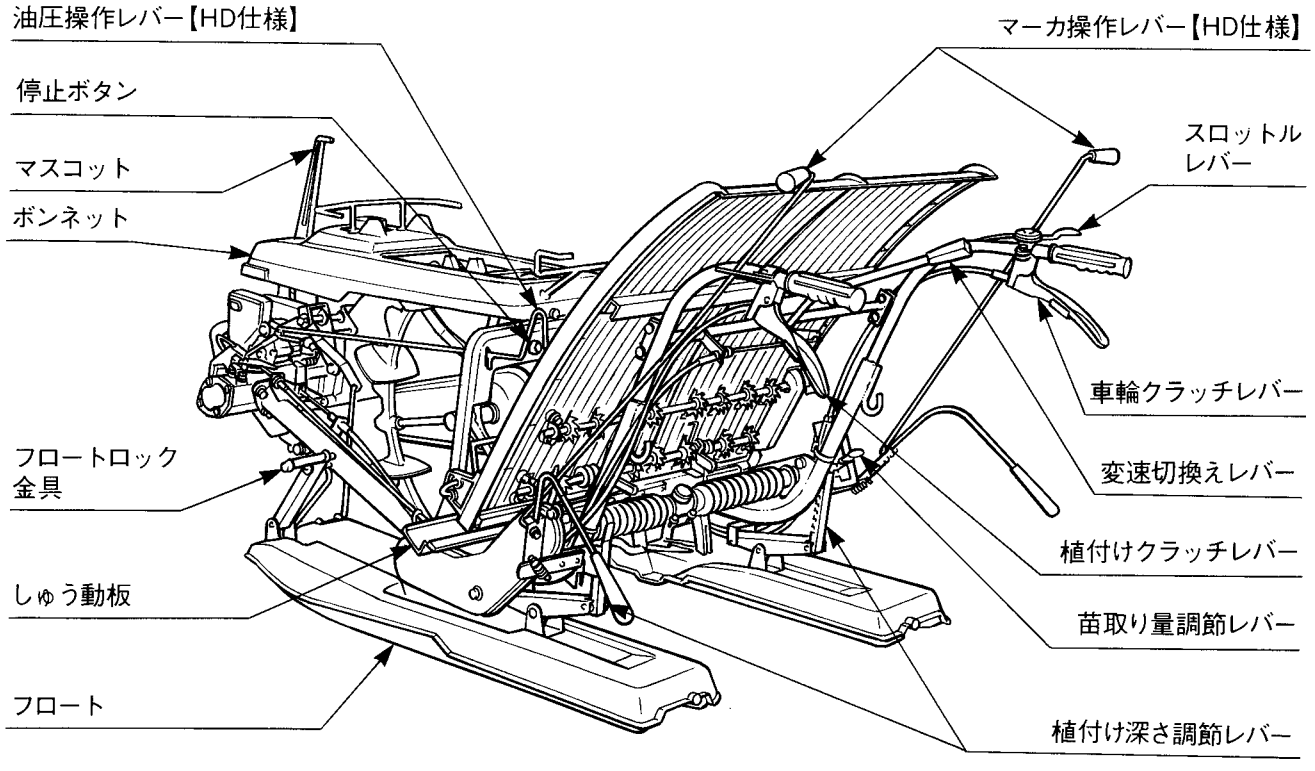
農業機械の種類	田植機(土付き苗用)
型式	クボタ
区分	
条数	
製造番号	
製造会社	株式会社クボタ

各部の名称と装置の取扱い

各部の名称

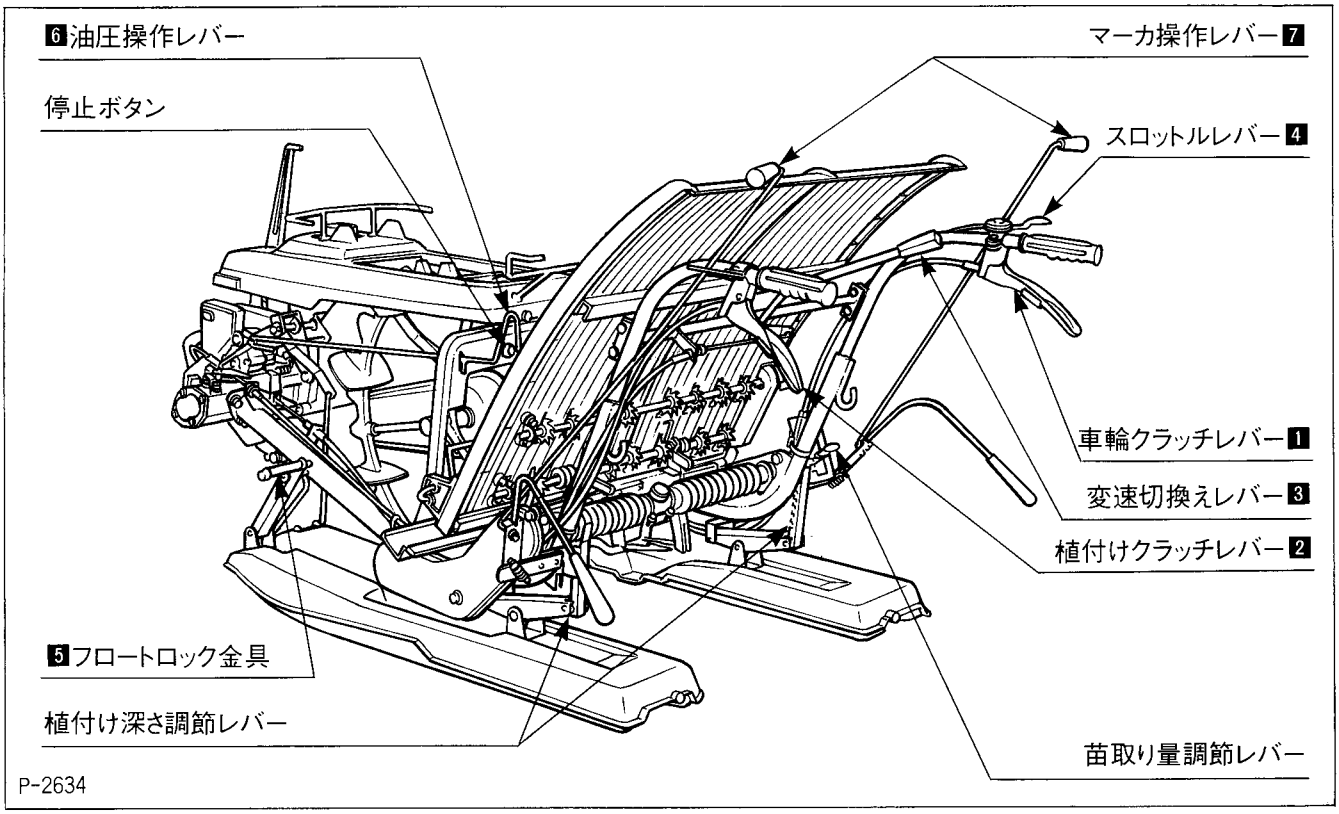


P-2633



P-2634

装置の取扱い



参照ページ

1車輪クラッチレバー ……4
2植付けクラッチレバー ……4
3変速切換えレバー ……4
4スロットルレバー ……4
5フロートロック金具 ……4

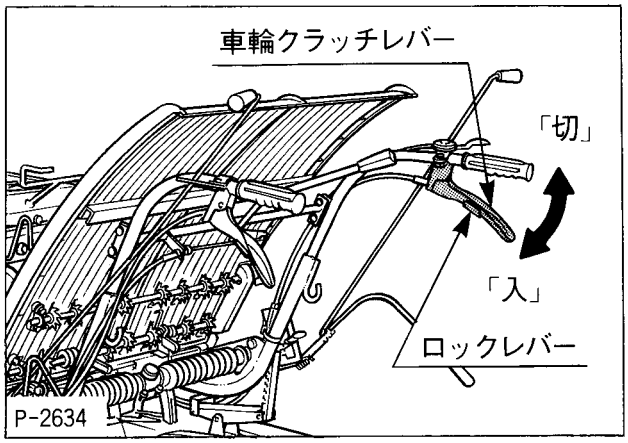
参照ページ

6油圧操作レバー ……5
7マーカ操作レバー ……5

1 車輪クラッチレバー

“切” ……レバーを握ると車輪クラッチが切れて，走行しなくなります。

“入” ……レバーを離すと車輪クラッチが入って，走行します。



重 要

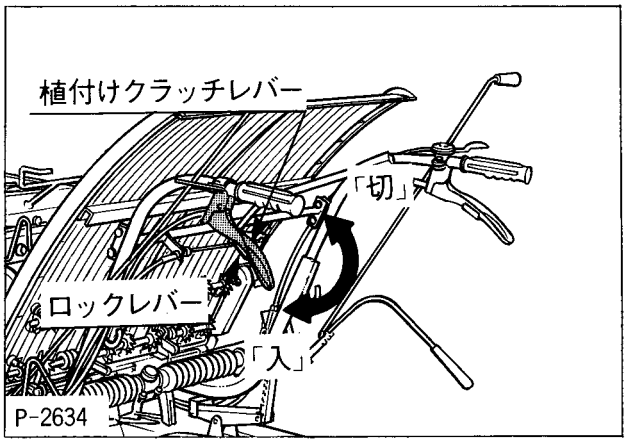
＊車輪クラッチレバーを握ると，自動的にロックレバーがロックされ走行しない状態になります。

＊ロックレバーを解除すると，車輪クラッチレバーが戻って走行する状態になります。

2 植付けクラッチレバー

“切” ……レバーを握ると植付けクラッチが切れて，植付け部が停止します。

“入” ……レバーを離すと植付けクラッチが入り，植付け部が作動します。



重 要

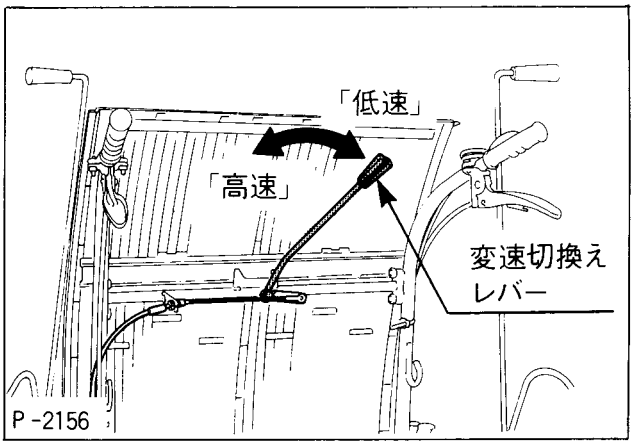
＊植付けクラッチレバーを握ると，自動的にロックレバーがロックされ植付け部が停止した状態になります。

＊ロックレバーを解除すると，植付けクラッチレバーが戻って植付け部が作動します。

3 変速切換えレバー

❶田植作業は，レバー位置が**“高速”**・**“低速”**のどちらでも使用できます。

❷旋回のときは，レバー位置を**“低速”**にすると楽に行なえます。

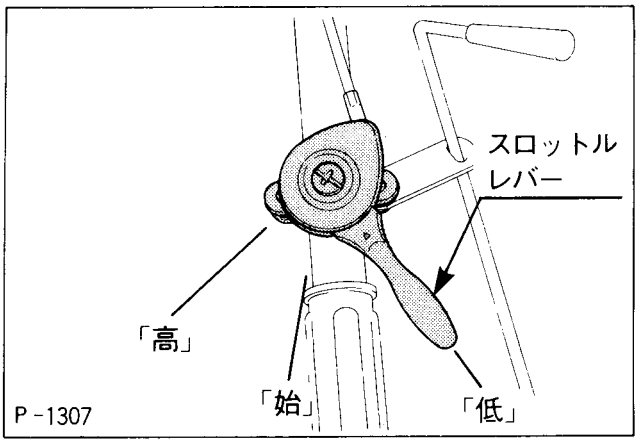


4 スロットルレバー

“高” ……エンジン回転が上がります。

“始” ……エンジンを始動する位置。

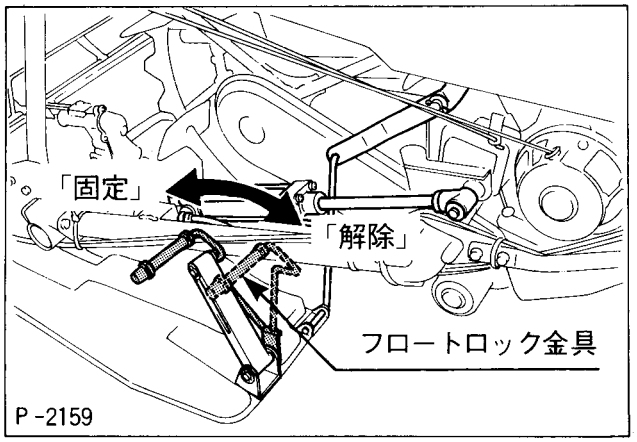
“低” ……エンジン回転が下がります。



5 フロートロック金具

“固定” ……苗の補給や長期格納のとき。

“解除” ……植付け作業のとき。

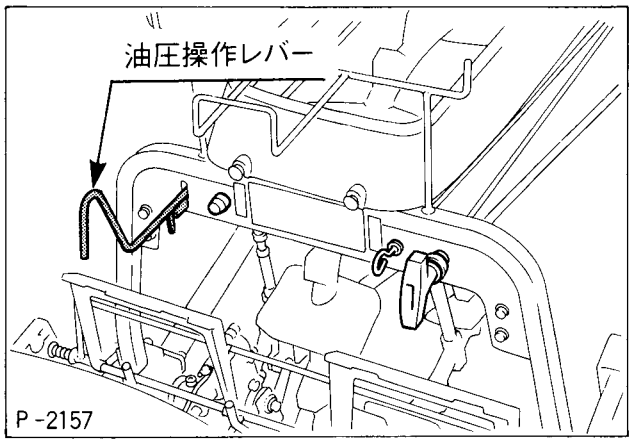


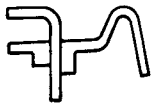
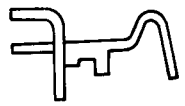
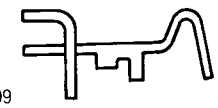
6油圧操作レバー【ＨＤ仕様】

“植付け”……油圧が作動して，自動的に車輪が上下します。

“固定・エンジン始動”……エンジンを始動する位置で，油圧は作動せず機体が固定されます。

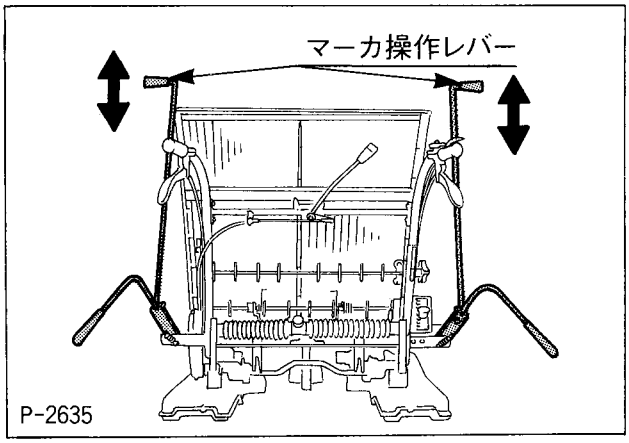
“上昇”……油圧が作動して，機体が上昇します。



油圧操作レバー	
植付け	
固定 エンジン始動	
上昇	 P-1309

7マーカ操作レバー【ＨＤ仕様】

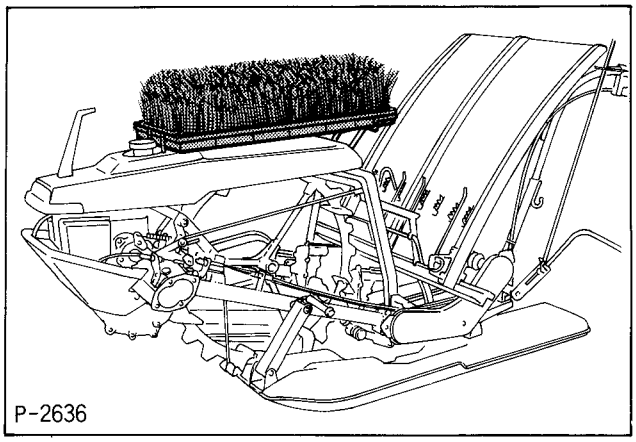
レバーを下方に押下げるとマーカが倒れます。
上方に引上げると収納できます。

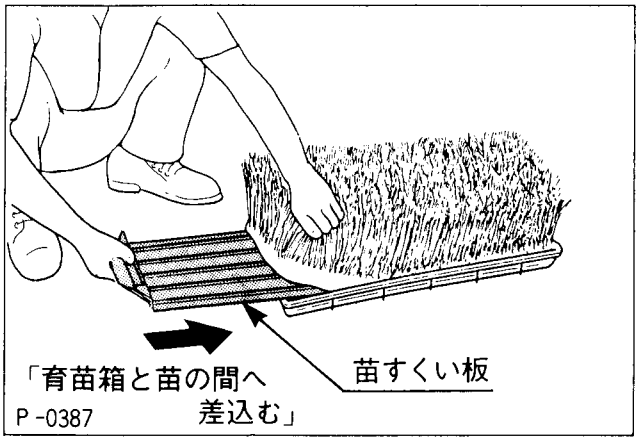


■予備苗のせ台の使い方【HD仕様】

長いほ場で作業をされるときは，途中での苗補給が便利なように，予備苗のせ台に苗を積んでいくことができます。

育苗用の箱を使いますが，苗は取出しを楽にするため，いちど箱からすくい出したものを，再び箱に入れて使うのがよいでしょう。

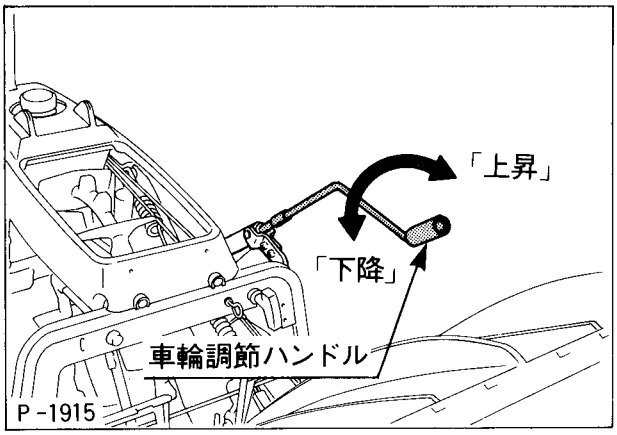




■車輪調節ハンドル【Ｄ仕様】

“右回し”……機体が**“上昇”**します。

“左回し”……機体が**“下降”**します。



取扱い作業のポイント

■植付け作業の手順

◆植付け準備

❶ほ場に入り，車輪クラッチレバーを**“切”**にします。

❷フロートロック金具を**“解除”**位置にし，フロートの固定を解除してください。

❸油圧操作レバーを**“植付け”【HD仕様】**，車輪調節ハンドルで機体を**“上昇”【D仕様】**位置にして，植付けクラッチレバーを**“入”**にし，苗のせ台を右端又は左端に寄せます。

❹苗のせ台が端まできて縦送り(ホイル)作動直後に植付けクラッチレバーを**“切”**にし植付け爪を停止させます。

❺苗のせ台にていねいに苗をのせます。

❻油圧ロックを解除し**【HD仕様】**，車輪調節ハンドルで**【D仕様】**，植付け部をゆっくり降ろします。

❼植付け深さ調節レバー，苗取り量調節レバーを希望する位置にセットします。

◆植付け

❽変速切換えレバーを**“希望”**位置にセットします。

❾植付けクラッチレバーを**“入”**にし，HD仕様は後ろマーカを植える側へ倒してください。

❿エンジン回転を**“高”**にして車輪クラッチレバーを**“入”**にし，植付けを開始してください。

◆植付け停止

⓫植付けを止めるときは，植付けクラッチレバーを**“切”**にして行なってください。

■旋回のしかたとマーカの使い方【HD仕様】

❶マーカ操作レバーを引上げます。

❷(エンジン回転を下げて)植付けクラッチレバーを**“切”**にします。(速度は自動的に減速します)

❸ハンドルを持上げながら旋回する側に少し傾斜させ，ハンドルを後方に引き気味に，自分から先に回ります。

❹旋回が終れば，隣接条間が合うようにハンドルで操作してください。

❺マーカ操作レバーでラインマーカをセットし，植付けクラッチレバーを**“入”**にして適当な作業速度で植付けてください。

作業前の点検について

始動前の給油と注油

注　意

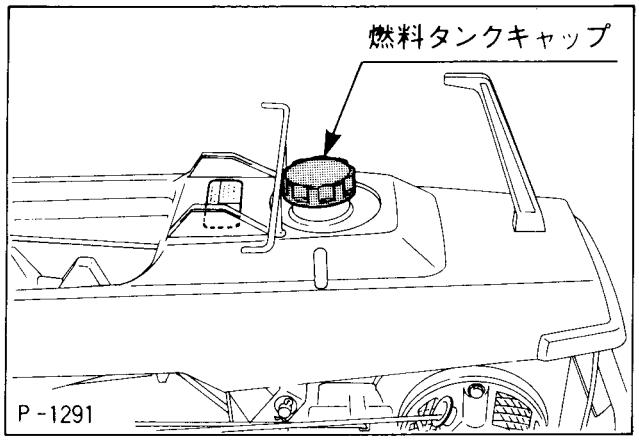
＊給油中エンジン停止。
＊給油中火気厳禁。（タバコを吸わないこと）
＊こぼれた燃料は完全にふき取る。
＊機体を最も低い位置にする。
＊機体を水平にして給油。

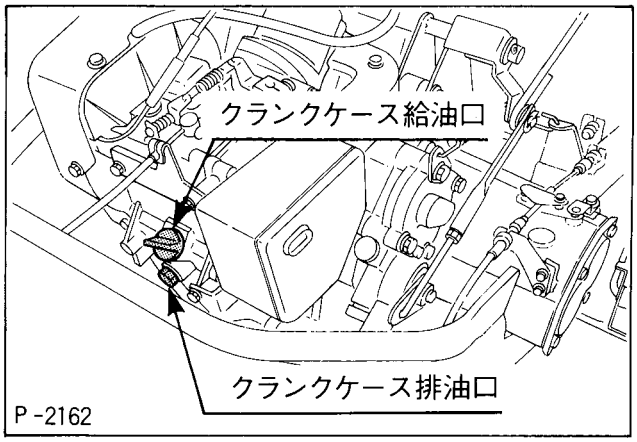
重　要

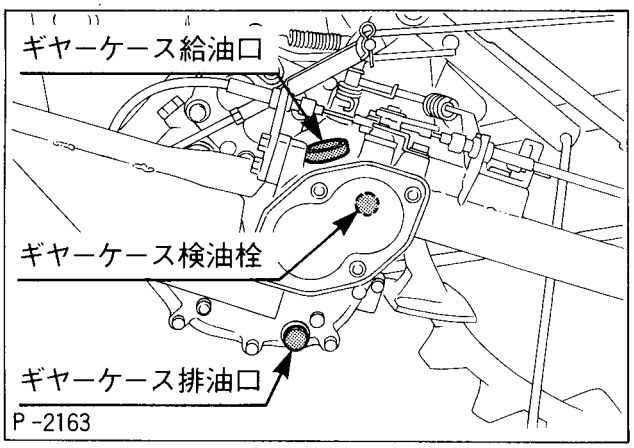
＊この田植機は，工場出荷時各部には給油していませんので，必ず使用前に給油してください。オイルを入れないままで運転しないでください。
＊燃料補給の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。
＊燃料キャップが締まっているかを確認してください。
＊エンジンオイルの給油および点検は，必ずエンジンを水平にして行なってください。
＊エンジンオイル給油の際は，付属のジョウゴを使えば楽に給油できます。

毎日エンジン始動前に，下表の箇所に給・注油してください。

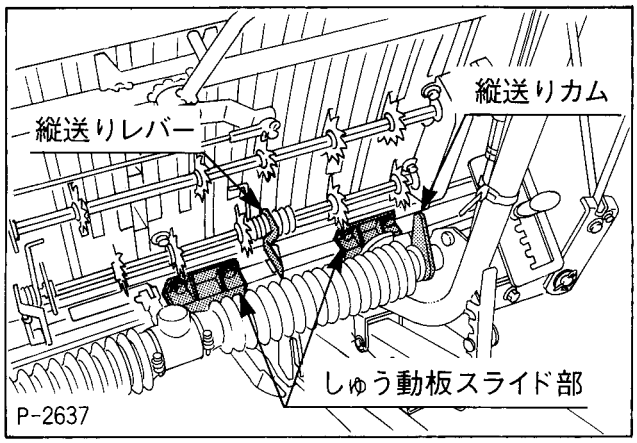
給　油　箇　所	種　　類	給　油　量
燃料タンク	自動車用レギュラガソリン （無鉛）	約1.7ℓ （4～5時間植付け可能）
エンジンクランクケース	クボタ純オイルG30又はG20 （ガソリン・灯油エンジン用）	機体を水平状態にして 給油口いっぱいまで… 約0.35ℓ
ギヤーケース	クボタ純オイルスーパーUDT （ミッション用）	約1.7ℓ
縦送りレバー及び縦送りカム	グリース，又は クボタ純オイルG30 （ガソリン・灯油エンジン用）	適　量
しゅう動板スライド部		
しゅう動板		
苗のせ台シュー		
苗取り調節ブラケットしゅう動面		
車輪クラッチレバー支点及びワイヤ連結部	クボタ純オイルG30又はG20 （ガソリン・灯油エンジン用）	適　量
車輪クラッチワイヤ		
植付けクラッチレバー支点及びワイヤ連結部		
縦送りスプリング　レフト・ライトの外周		
苗取り量調節支点		
フロート揺動支点		
ピタリックスアーム支点		
変速アーム支点		
変速切換レバー支点及び変速切換支点部		
シリンダの支点及び連動アーム【HD仕様】		
油圧リンク【HD仕様】		
後ろマーカ支点【HD仕様】		
サスペンション連結部【D仕様】		
ハンドル受部【D仕様】		
車輪調節ネジ支点部【D仕様】		

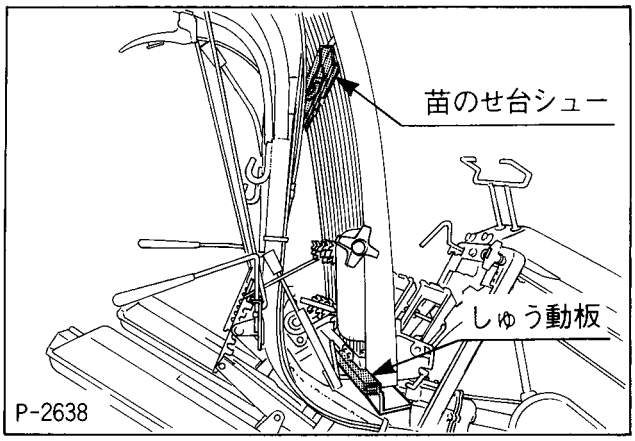

燃料タンクキャップ
P-1291

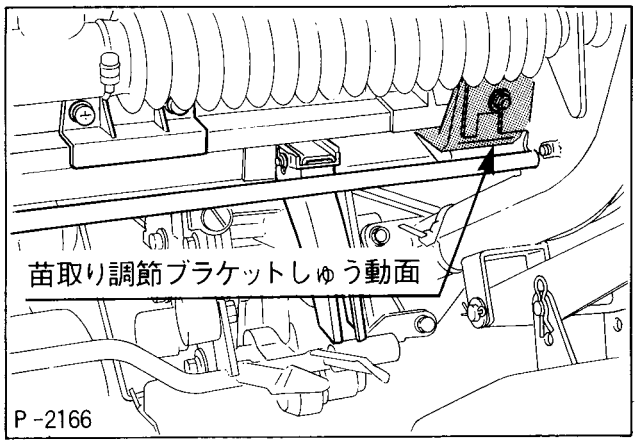

クランクケース給油口
クランクケース排油口
P-2162


ギヤーケース給油口
ギヤーケース検油栓
ギヤーケース排油口
P-2163

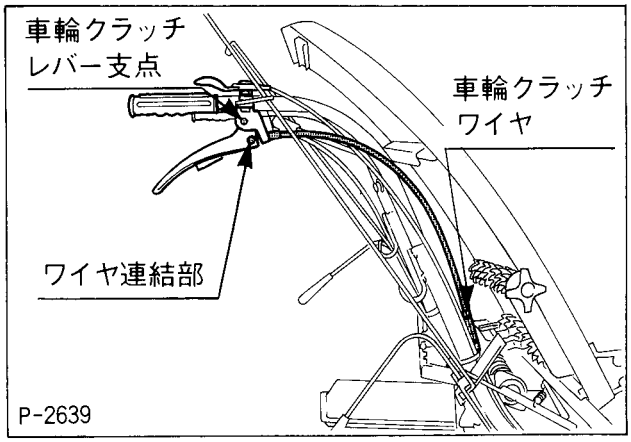
■グリース

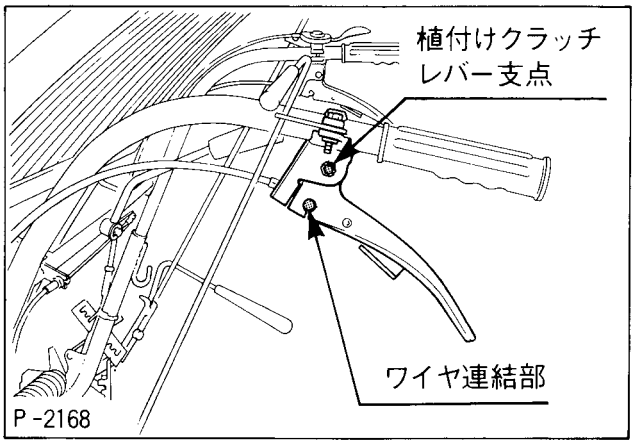

縦送りカム
縦送りレバー
しゅう動板スライド部
P-2637

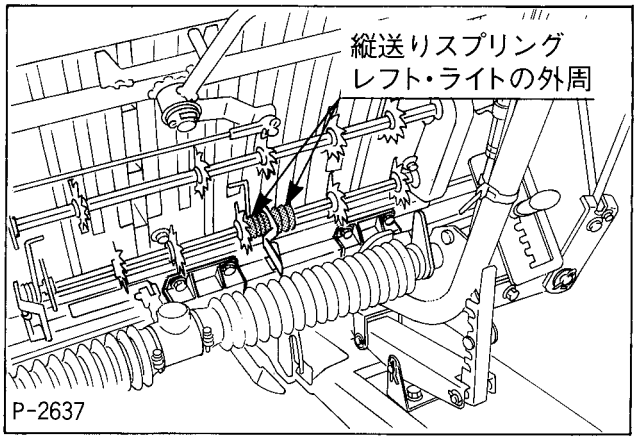

苗のせ台シュー
しゅう動板
P-2638

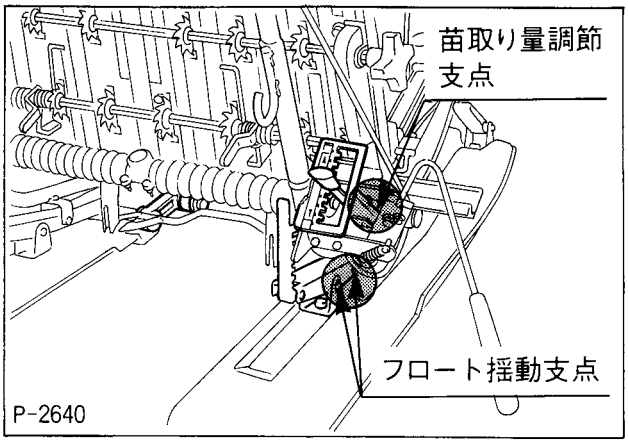

苗取り調節ブラケットしゅう動面
P-2166

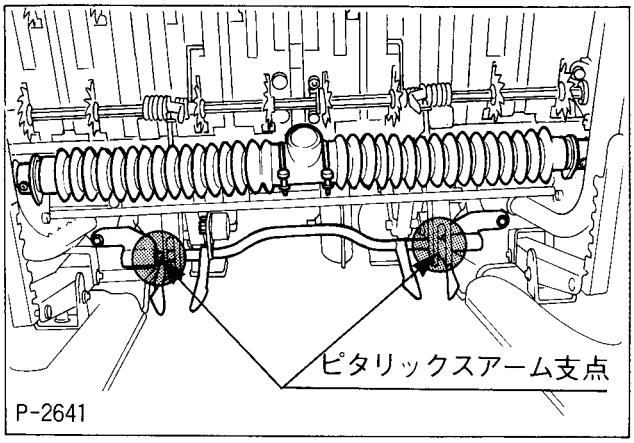
■オイル

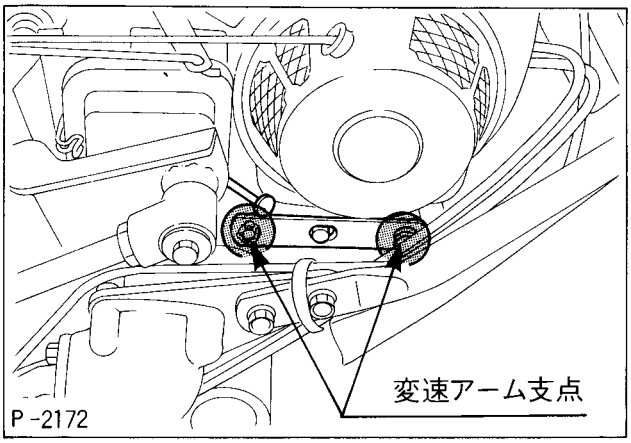

車輪クラッチ
レバー支点
車輪クラッチ
ワイヤ
ワイヤ連結部
P-2639

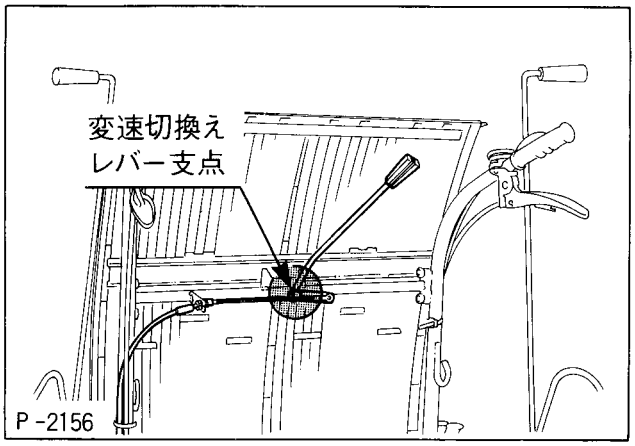

植付けクラッチ
レバー支点
ワイヤ連結部
P-2168

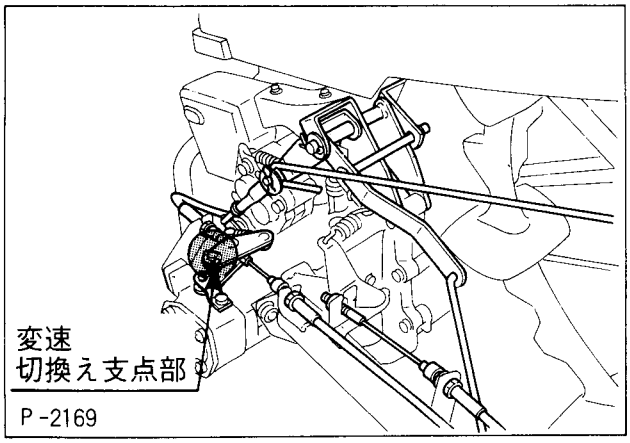

縦送りスプリング
レフト・ライトの外周
P-2637

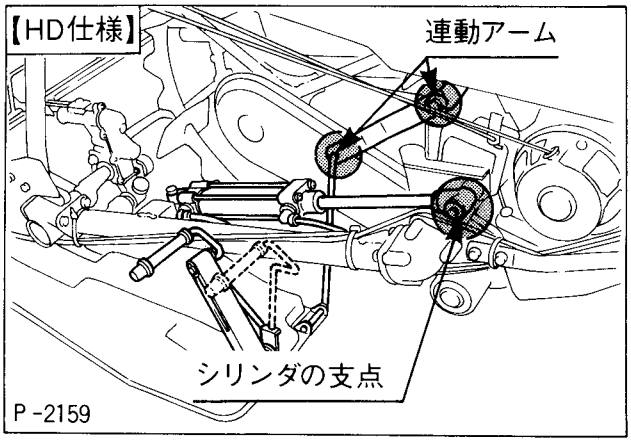

苗取り量調節
支点
フロート揺動支点
P-2640

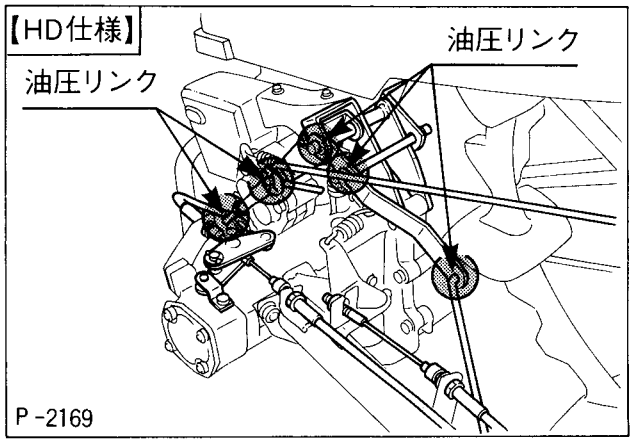

ピタリックスアーム支点
P-2641

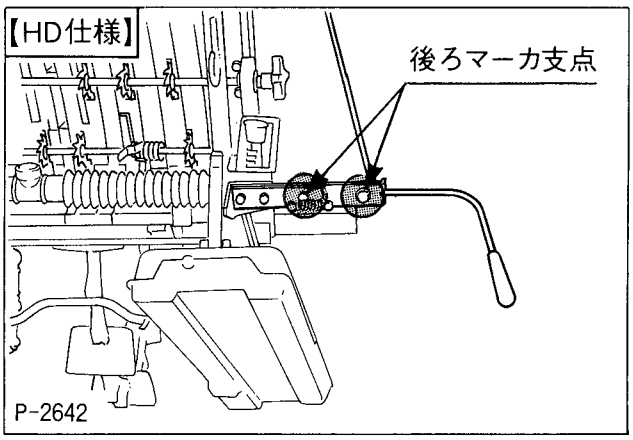

変速アーム支点
P-2172

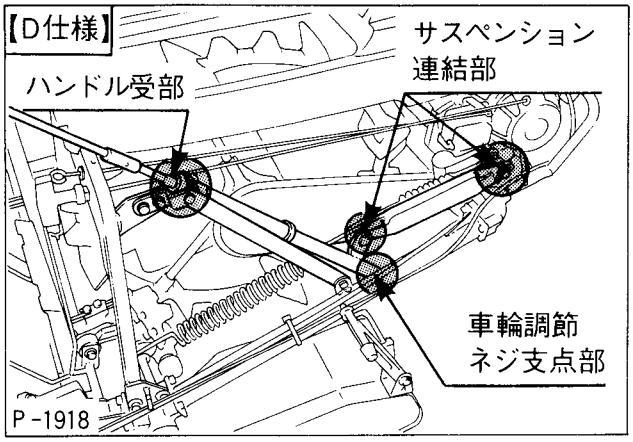

変速切換え
レバー支点
P-2156


変速
切換え支点部
P-2169


【HD仕様】
連動アーム
シリンダの支点
P-2159


【HD仕様】
油圧リンク
油圧リンク
P-2169


【HD仕様】
後ろマーカ支点
P-2642


【D仕様】
サスペンション
連結部
ハンドル受部
車輪調節
ネジ支点部
P-1918

上手な運転のしかた

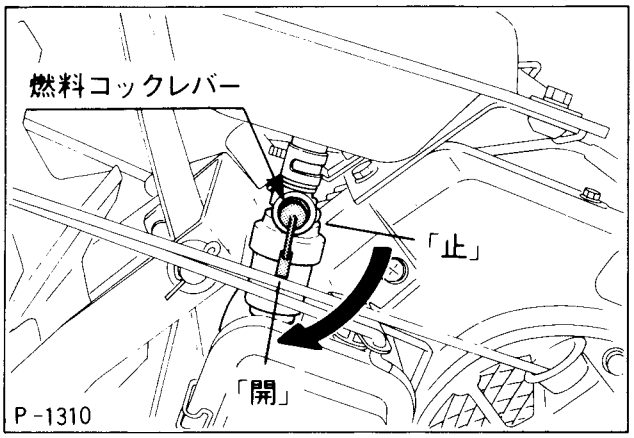
エンジンの始動と停止

注 意

＊この取扱説明書前編の黄色のページ“安全に作業するために”の内容を必ずお読みください。
＊田植機に貼ってある警告・注意ラベルの内容を必ずお読みください。
＊エンジン排気ガスによる排気ガス中毒をさけるため，換気の不十分な納屋・倉庫でエンジンを回さないでください。
＊周囲の人に始動の合図をして，始動操作は運転位置で行なってください。
＊スタータハンドルを引っ張る前に，手が人や物に当たらないか周囲をよく確めてください。
＊車輪クラッチレバーと植付けクラッチレバーを“切”にしてからエンジンを始動してください。

■始動のしかた

❶燃料コックレバーを“開”にします。

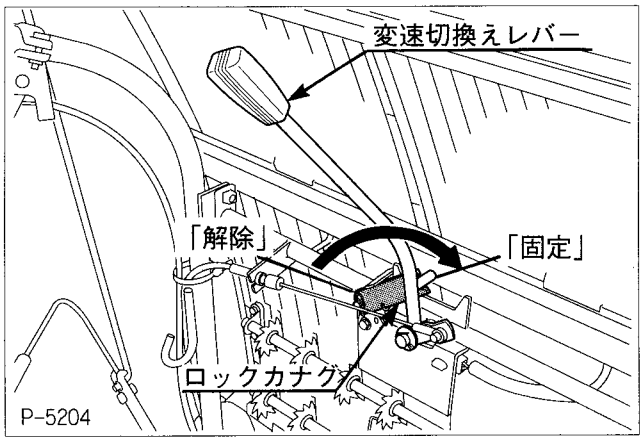


❷車輪クラッチレバー，植付けクラッチレバーは“切”にします。

注 意

＊クラッチが入っていると，エンジンが始動すると同時に動き始め危険です。

❸変速切換えレバーをロックカナグで固定します。



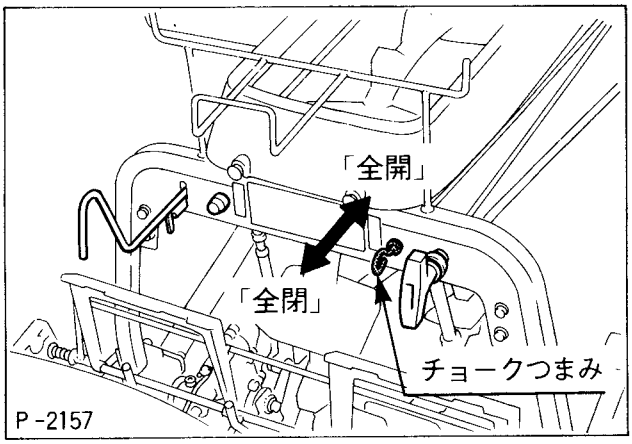
重 要

＊変速切換えレバーを固定しないとエンジンが始動しません。

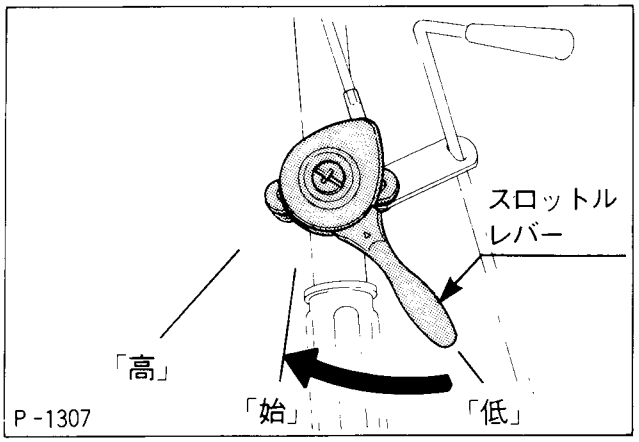
❹油圧操作レバーは，“固定・エンジン始動”の位置にしてください。

❺チョークを操作します。

- エンジンが冷えているとき
  → “全閉”
  （“つまみ”を引く）
- 暖まった状態から再始動するとき
  → “全開”又は“半開”
  （“つまみ”を引かない又は少し引く）

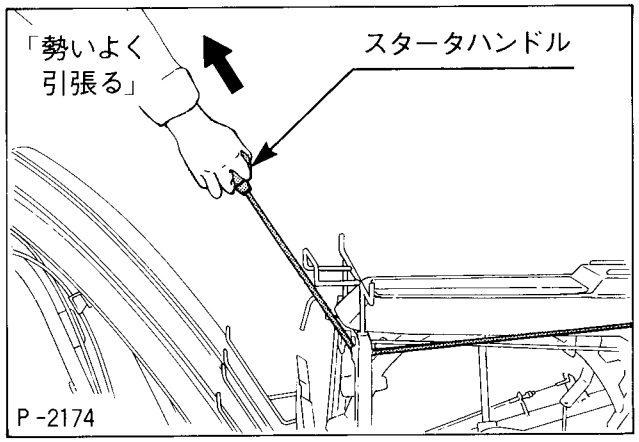


❻スロットルレバーを“始”の位置に合せます。



❼スタータハンドルを勢いよく引張ると，エンジンが始動します。

- 始動するときはスタータハンドルをハンドル受けから外して引張ってください。
- ロープは65cm以上引出さないでください。
  引きすぎると故障することがあります。



❽始動したら，エンジンの回転調子をみながらチョークを徐々に“全開”にします。（“つまみ”を戻す）

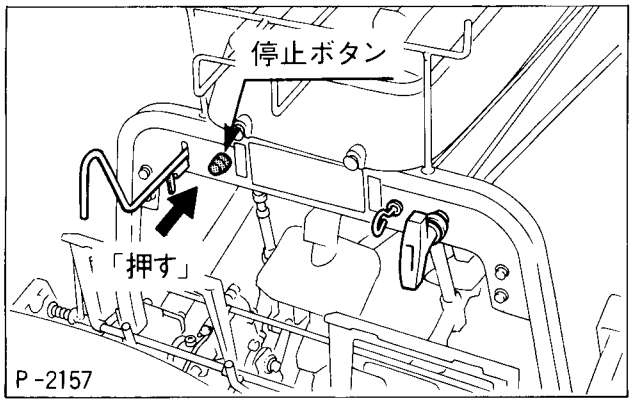
重 要

＊エンジンが始動しても急に高速にせず，5分程度暖機運転してから作業を始めてください。

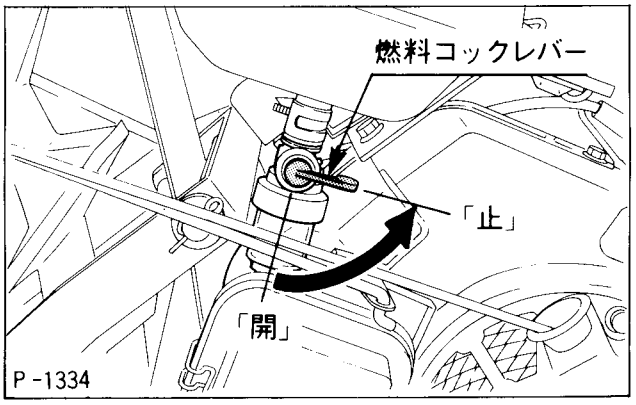
■停止のしかた

❶スロットルレバーを“低”にして，3分ぐらい運転します。

❷停止ボタンを押します。



❸燃料コックレバーを“止”にします。



重 要

＊エンジンを止めたら，燃料コックが完全に閉じているかを確認する習慣をつけましょう。

注 意

＊エンジン停止後，しばらくはエンジン，マフラ，配気管などが高温になっていますので触れないようにしてください。

▶もし触れると……

ヤケドをすることがあります。

■ならし運転

田植機各部になじみをつけるために，10アールぐらい使用するまではエンジンを高速回転させたり，過酷な使用は避けてください。

移動走行

注 意

＊この機械は，公道走行はできません。
＊田植機のフロートが路面に当らないように，機体を上げた状態でフロートをロックして走行してください。
＊苗のせ台を中央にして走行してください。
＊移動走行時は，苗を積まないようにしてください。
＊公道を走行するときには，トラックなどで運搬するようにしてください。
＊走行時は，必ず左右マーカを収納して周囲の妨げにならないようにしてください。【HD仕様】

■発進のしかた

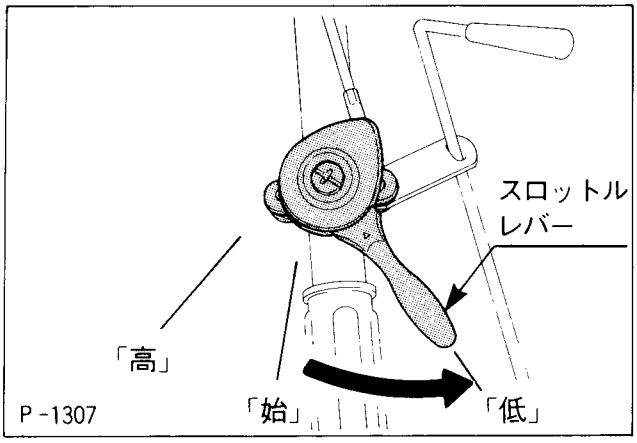
❶エンジンを始動したら，スロットルレバーを**“始”**と**“高”**の間ぐらいに回してエンジン回転を少し上げます。
植付けクラッチレバーは**“切”**にしてください。
❷変速切換えレバーを**“希望”**位置にします。
❸車輪クラッチレバーのロックレバーを握ってロックを外すと，前進します。

■停車のしかた

注 意

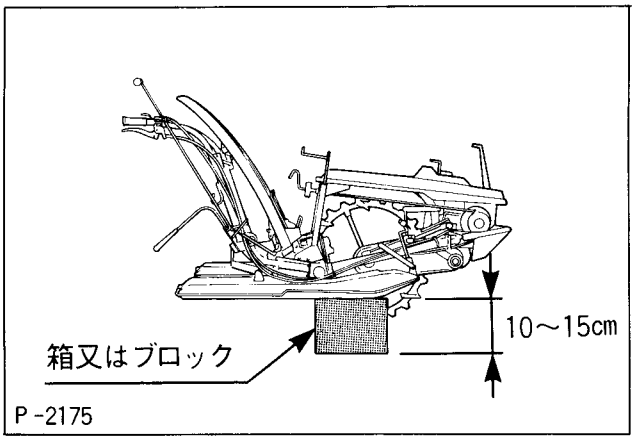
＊転落・転倒事故防止のため機械は，平坦で安定した場所に停車してください。

❶スロットルレバーを**“低”**の方に回し，車輪クラッチレバーを握ると停車します。
❷停止ボタンを押して，エンジンを止めてください。



重 要

＊路上で植付け部を回すときは，フロートの先端下部に厚さ10～15cmの箱又はブロックを置き，ハンドルを持上げて操作してください。
＊植付けクラッチを入れると機体が下がり，植付け爪が路面に当たって故障の原因になることがあります。



トラックへの積込み・積降ろし

注 意

＊アユミ板は十分な強度と長さ，板幅（30cm以上）のあるすべり止め付きのものを使用してください。
＊アユミ板のフックは荷台に段差のないように，また，ずれないように確実に掛けてください。

■積込み・積降ろしのしかた

注 意

＊平坦な場所を選び，できるだけ助手の立合誘導のもとに行なってください。また，田植機の周囲に人を近づけないでください。
＊アユミ板の途中では決して車輪クラッチは切らないでください。機体が急降下し，非常に危険です。

アユミ板の条件

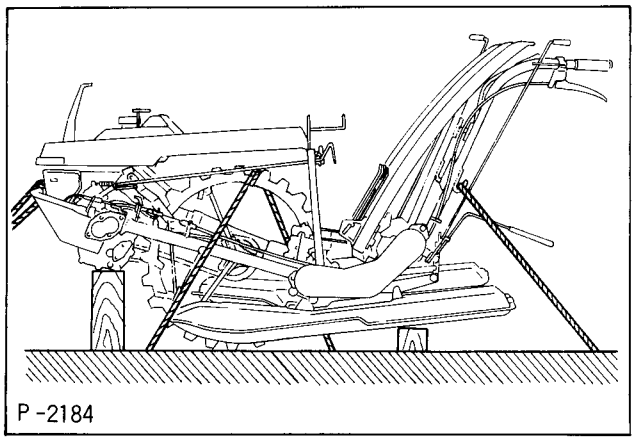
長さ	車の荷台高さの４倍以上
幅	30cm以上
数量	１枚
強度	150kg以上の重量に耐えうるもの

❶マーカを収納し【HD仕様】苗のせ台を機体中央位置にします。
❷機体を適当な高さまで上昇させ，固定します。
❸予備苗などの荷物は事前に降ろしておいてください。
❹変速切換えレバーは“低速”で機体のバランスを保ちながら，ゆっくり積み降ろししてください。

◆トラックなどで運搬する場合

重 要

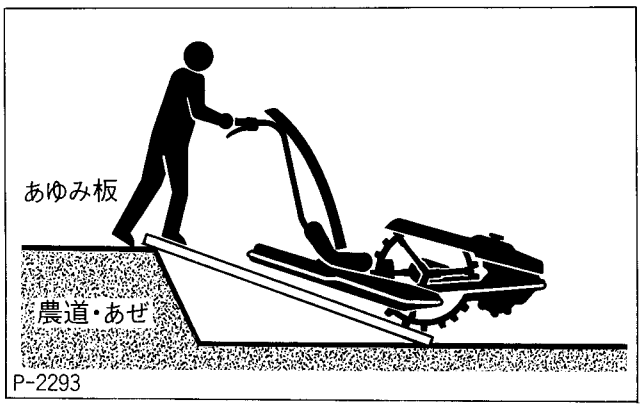
＊エンジン台やギヤーケースの下に木の台を置いて，機体を浮かせてロープをかけてください。
＊機体が左右に傾かないよう注意してください。
＊車輪を上げ，重心を低くしてください。
＊フロートに無理な力をかけて変形させないようにしてください。
＊燃料コックレバーを“止”にしてください。


P-2184

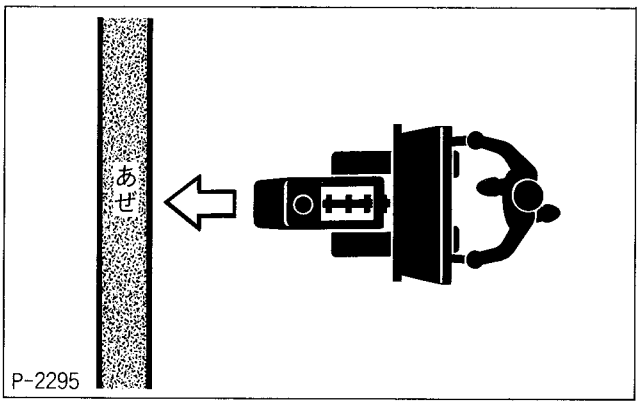
ほ場への出入り

注 意

＊農道・あぜとほ場の高低差が大きいときは，アユミ板を使用して出入りしてください。
＊予備苗など田植機に荷物を積んでの出入りは危険ですので，必ず荷物はおろして出入りしてください。



P-2293



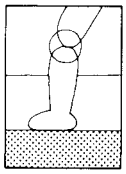
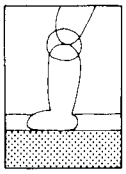
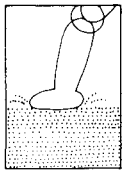
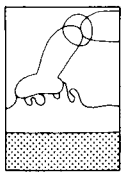
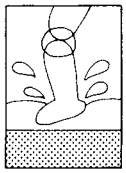
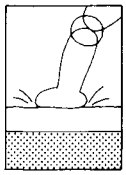
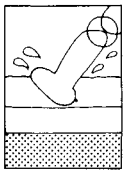
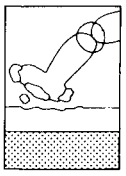
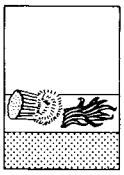
P-2295

上手な植付けのしかた

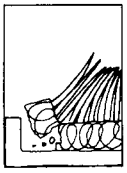
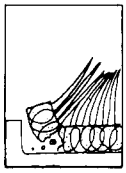
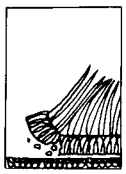
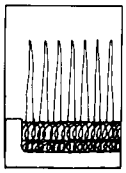
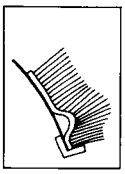
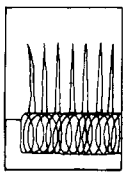
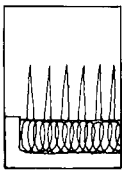
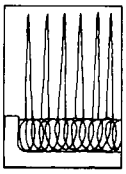
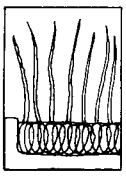
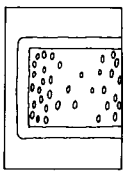
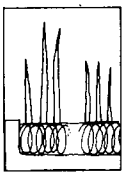
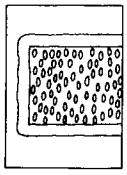
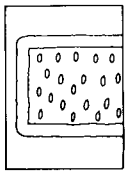
田植え作業のほ場と苗の条件

上手な植付けを行なうには，ほ場の条件，苗の条件が良くなければ出荷状態でうまく使えないことがあります。次のような条件が予想される場合は事前に購入先，又はＪＡ（農協）にご相談ください。

■ほ場条件

項　目	条　件（うまく使えないこともある状況）	
深　さ	 ①耕盤までの深さが30cm以上ある深いほ場。	 ②耕盤までの深さが10cm以下の浅いほ場。
土　質	 ①砂質の多いほ場（手植えでも植えにくいほどの硬いほ場)。	 ②強粘土質のほ場（歩くのが困難な粘いほ場)。
硬　さ	 ①代かき直後のほ場，又は代かき後いく日たっても固まらないトロトロの軟らかいほ場（歩いても足跡がすぐ埋まるようなほ場)。	 ②代かき後,日数がたって硬くなったほ場，又は代かき後すぐに固まるほ場（手植えするにも指が痛くなるような硬いほ場)。
水　深	 ①水深の平均が3cmを越える水の多いほ場。	 ②水気がなく，車輪に泥がまつわりつくようなほ場。
夾雑物	 ①裏作跡などで，刈り株・排ワラ又は雑草が十分腐らず，代かき後も表面に多量に露出しているほ場。	

■苗条件

項　目	条　件（うまく使えないこともある状況）		
苗　床	 ①砂質が多く，苗床が崩れやすい苗。	 ②根張りが悪く，苗床が崩れやすい苗。	
	 ③根張りはよいが，根を切ったために苗床が崩れやすい苗。	 ④根の張り過ぎた，植付け爪のささりにくい苗。	
	 ⑤苗床厚（マット厚）が2cm以下の，薄い苗。	 ⑥苗床厚（マット厚）が4cm以上の，厚い苗。	
草　丈	 ①草丈が8cm以下の，短い苗。	 ②草丈が20cm以上の，長い苗。	
素　質	 ①軟弱徒長苗。	 ②播種ムラのひどい苗。	 ③成育ムラやハゲた部分のある苗。
播種量	 ①催芽もみで，1箱当り250g以上の，厚播きの苗。	 ②催芽もみで，1箱当り100g以下，の薄播きの苗。	

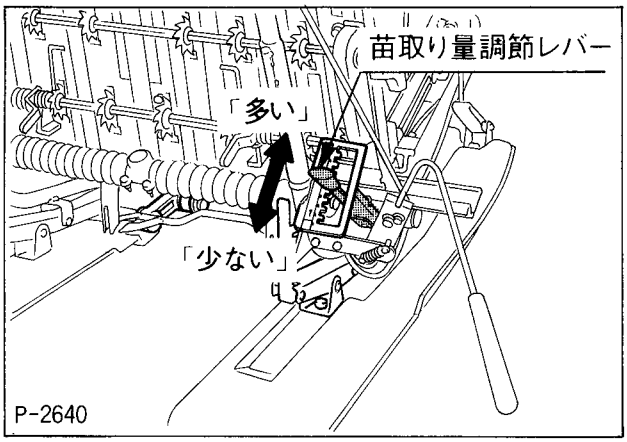
育苗方法は各地区ごとに詳しい指針，指導要領がありますので，普及所や指導機関によくご相談ください。

田植え作業前の準備

■苗の使用量

10アール当りの苗の使用量は，栽植密度と1株の植付け本数によって決まります。次頁に示す表は，標準苗取り量の目安です。播種量は稚苗200～220g，中苗100gを基準として算出してあります。

実際には，余裕をみて多めに準備してください。また，苗取り量を変えると必要な箱数も変わってきます。

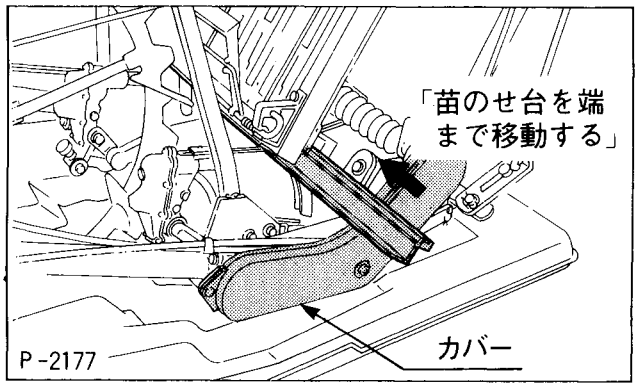


隣接条間(cm)	株間 14cm			株間 16cm			株間 18cm		
	3.3m²当りの植付け株数	10アール当りの所要苗箱数		3.3m²当りの植付け株数	10アール当りの所要苗箱数		3.3m²当りの植付け株数	10アール当りの所要苗箱数	
		稚苗	中苗		稚苗	中苗		稚苗	中苗
28	85	17	36	75	15	31	65	14	28
30	80	16	34	70	14	30	60	13	26
33	75	15	33	65	14	29	55	12	26

■横送り量の調節

苗の種類（稚苗・中苗）により苗のせ台の横送り量を切換えることができます。

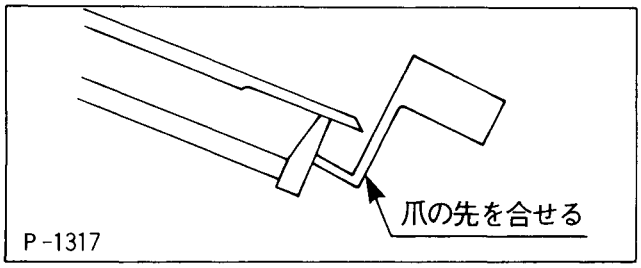
❶苗のせ台を右端又は左端に移動させます。



❷縦送り直後に植付けクラッチ，車輪クラッチを切ります。

❸エンジンを止めます。

❹植付けアームを手で回して植付け爪を下図の位置に合せます。

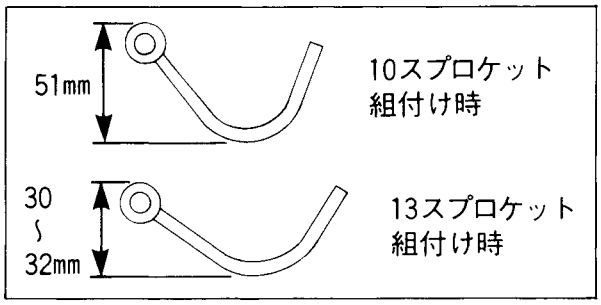


❺植付けチェーンケースのボルト，ナットを外してカバーを取ります。

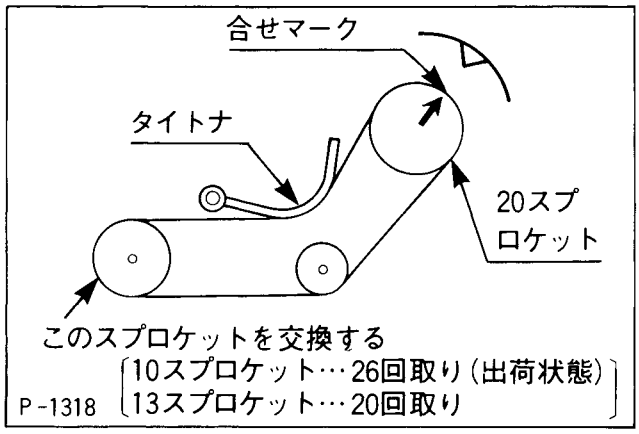
❻10スプロケットを付属品箱の中にある13スプロケットと交換します。

重 要

＊スプロケットを交換するときは，必ずタイトナの**“曲がり”**を調節してください。



❼横送り量を調節するとき，20スプロケットは必ず合せマークに合せて組付けてください。

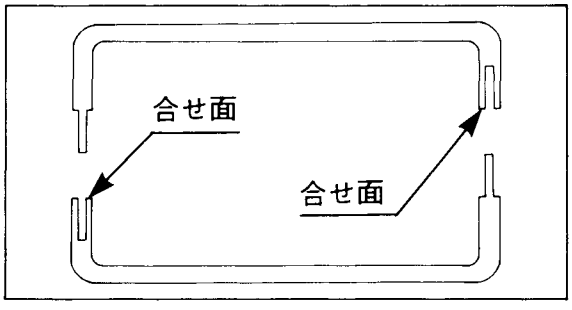


❽カバーを取付ける。

重 要

＊縦送りのタイミングを誤って切換えたときは，横送り量の調節❶〜❽を再度行なってください。

＊カバーを取付けるときは，カバーの合せ面にボンドを軽く塗布してください。



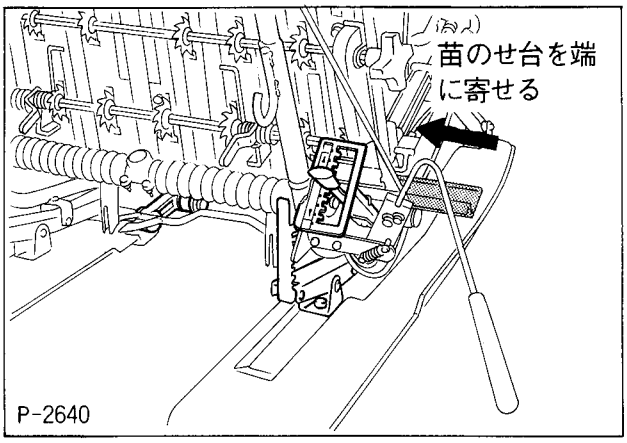
植付け作業のしかた

■植付け作業の順序と方法

❶ほ場に入り，車輪クラッチレバーを**“切”**にします。

❷油圧操作レバーを**“植付け”**【HD仕様】，車輪調節ハンドルで機体を**“上昇”**【D仕様】，位置にして植付けクラッチレバーを**“入”**にし，苗のせ台を右端又は左端に寄せます。

❸苗のせ台が端まできて縦送り直後に植付けクラッチレバーを**“切”**にし，植付け爪を停止させます。

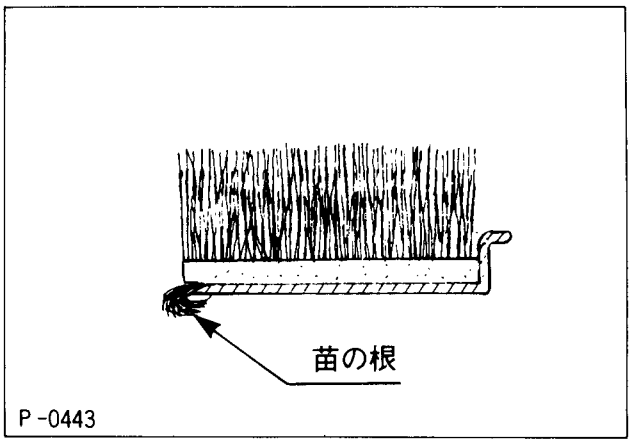


❹苗のせ台にていねいに苗をのせます。

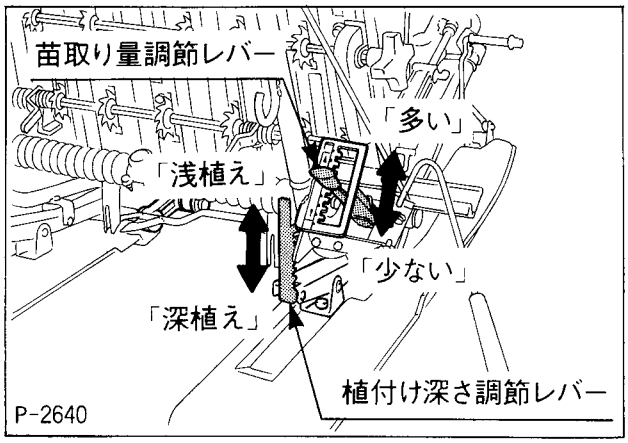
❺油圧ロックを解除し【HD仕様】，車輪調節ハンドルで【D仕様】，植付け部をゆっくり降ろします。

重　要

＊苗すくい板の先端に苗の根がからみついて固まりができることがあります。この根は必ず取除いてください。そのまま入れると欠株の原因になります。



❻植付け深さ調節レバー・苗取り量調節レバーを，希望する位置にセットしてください。



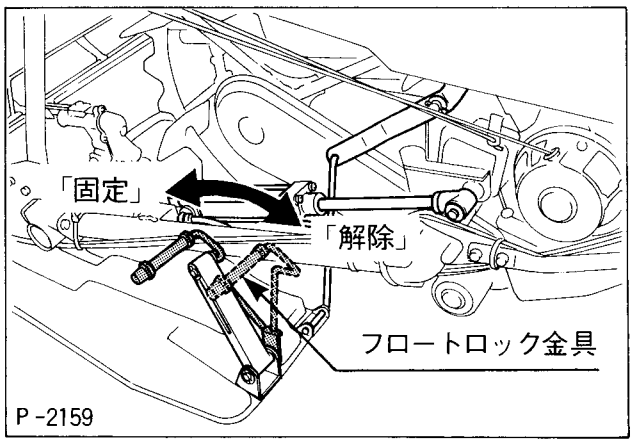
❼変速切換えレバーを**“希望”**位置にセットします。

❽植付けクラッチレバーを**“入”**にし，HD仕様はマーカを次に植える側へ倒してください。

❾エンジン回転を**“高”**にして車輪クラッチレバーを**“入”**にし，植付けを開始してください。

重　要

＊植付け時は，フロートロック金具を**“解除”**位置にし，フロートの固定を解除してください。
固定の状態では，フロートが上下せず植付け作業ができません。【HD仕様】



■安全クラッチ

注　意

＊安全クラッチが働いたら，すみやかに車輪クラッチレバー，植付けクラッチレバーを“切”にし，エンジンを止めて，障害物を取除いてください。

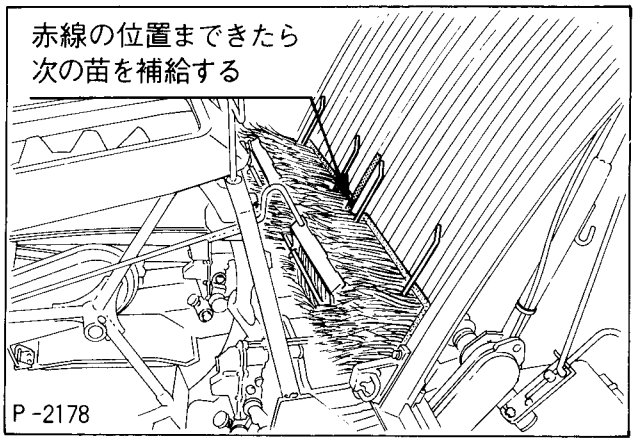
(1)植付け作業中，植付け部が停止し，ガッガッと高い音がしたときは安全クラッチが働いています。
(2)安全クラッチが作動して，ガッガッと音がする状態で作業を続けると，爪が破損したり，安全クラッチが摩耗して，植付けミスが起りやすくなります。
(3)障害物を取除いたあと，植付け爪が軽く回転するか，しゅう動板に当らないか，爪が曲がったり破損していないかを確認し，植付けを再開してください。
爪が曲がったり，破損したときは交換してください。

補　足

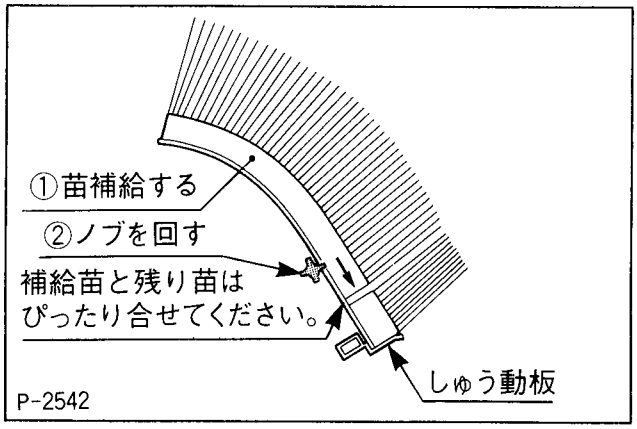
＊爪を交換したら，付属のゲージで苗取り量を合せてください。（合わせ方は21ページ参照）

■苗の補給

苗のせ台の苗の残りが，赤線の位置まできたら苗を補給してください。

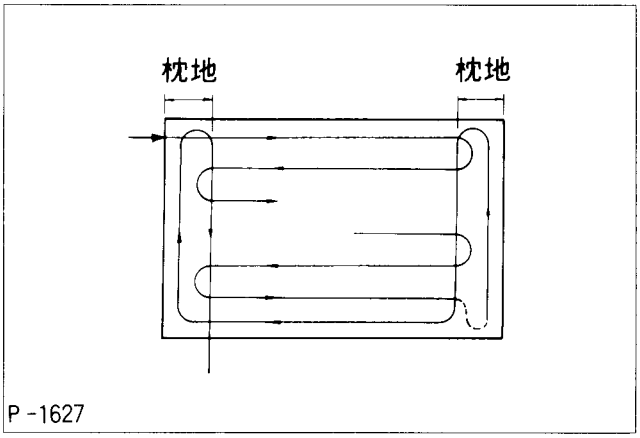


ほ場の長さを考えて，旋回のときに補給するようにしましょう。
(1)補給するときは，植付けクラッチレバーと車輪クラッチレバーを同時に“切”にしてください。
(2)補給するとき，苗のせ台を左右の端に移動させる必要はありません。苗がまったく無いときだけ端に移動させます。
(3)補給苗はていねいに扱い，苗との境目がぴったり合うようにしてください。



■枕地のとり方

❶枕地はあらかじめ（１往復分）残して植付けます。
❷植え始めは，ほ場の長辺方向のあぜにまっすぐな側から植付けます。



■旋回のしかたとマーカの使い方

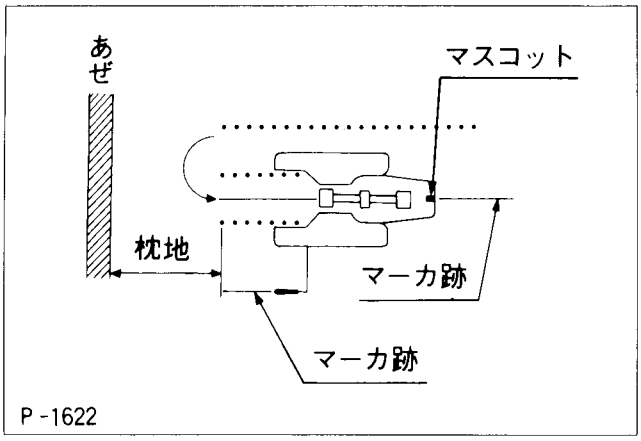
【ＨＤ仕様】

❶マーカ操作レバーを引上げます。
❷エンジン回転を下げて，植付けクラッチレバーを“切”にします。（速度は自動的に減速します）
❸ハンドルを持上げながら旋回する側に少し傾斜させ，ハンドルを後方に引き気味に，自分から先に回ります。

重　要

＊マーカを収納せずに旋回すると，マーカを破損したり曲げたりするので，忘れずに収納してから旋回する習慣をつけてください。

❹旋回が終れば，隣接条間が合うようにハンドルで操作してください。



❺マーカ操作レバーでラインマーカをセットし，植付けクラッチレバーを“入”にして適当な作業速度で植付けてください。

重 要

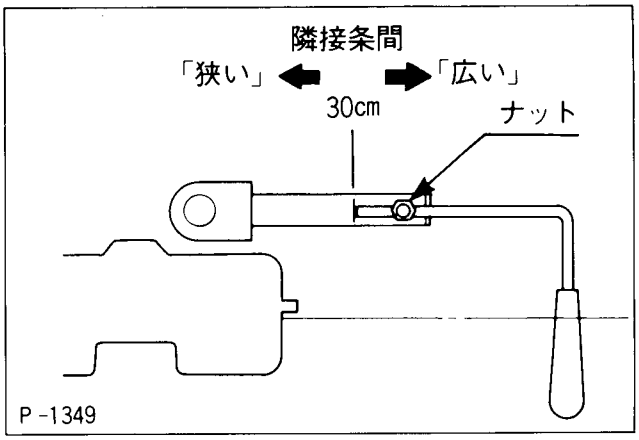
＊水が深すぎるとマーカ跡が見えにくくなりますので，１～２㎝のヒタヒタ水程度にしてください。

＊旋回時は，ボンネット先端のマスコットがマーカ跡に合うように旋回してください。

■隣接条間の調節【ＨＤ仕様】

フロート後部の左右にある後ろマーカの長さを変えて調節します。（30cm目盛が基準です）

ナットをゆるめると，後ろマーカは自由に出し入れできます。

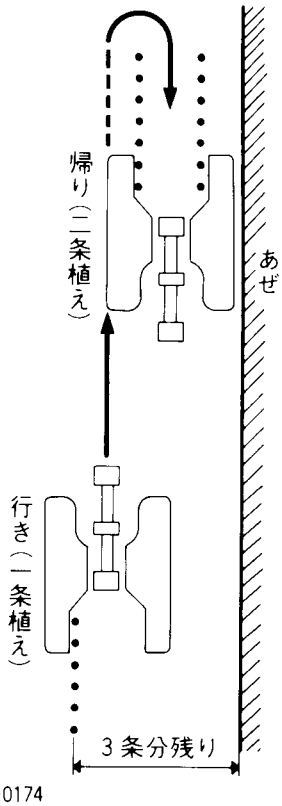


◆植え進み方向（下図参照）

(1)植え進み方向は，ほ場の長辺方向のあぜのまっすぐな側から植えます。

(2)両側のあぜが曲っているほ場では，内側から順に植えます。

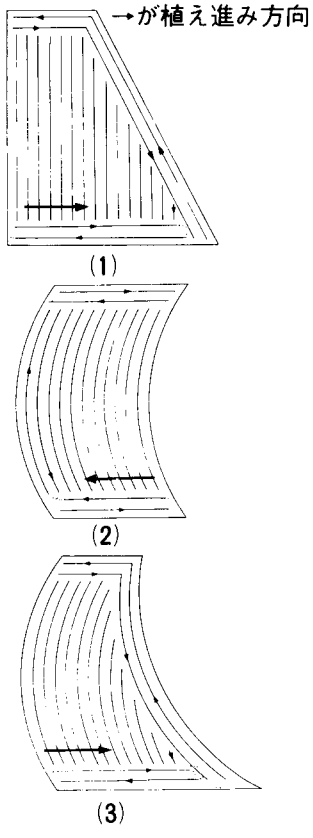
(3)両側が曲った三角形のほ場では，曲りの少ない方から植えます。



■あぜぎわの植付け

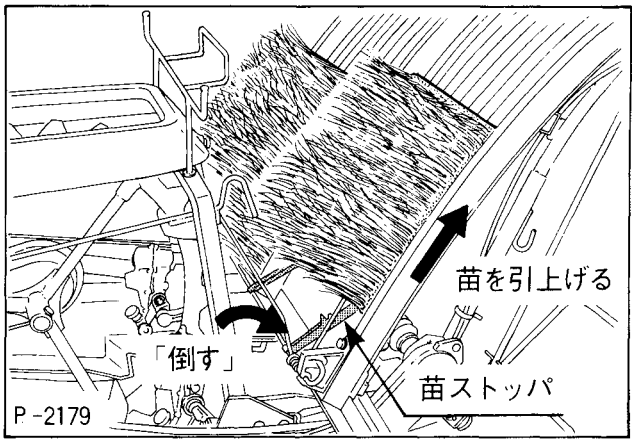
あぜぎわでの植付けで３条分植え残っている場合は，行きを１条だけ植え，帰りに２条植えて戻るという作業を行ないます。

そのときは，苗ストッパを使って下図のような植付け方法で植付けてください。



◆苗ストッパの調節

苗を引上げて苗ストッパを倒し，苗ストッパに苗をのせると植付け部への苗供給が止まり，植付けが停止します。
あぜぎわを植付ける際に使用してください。



■植付け作業中の調節

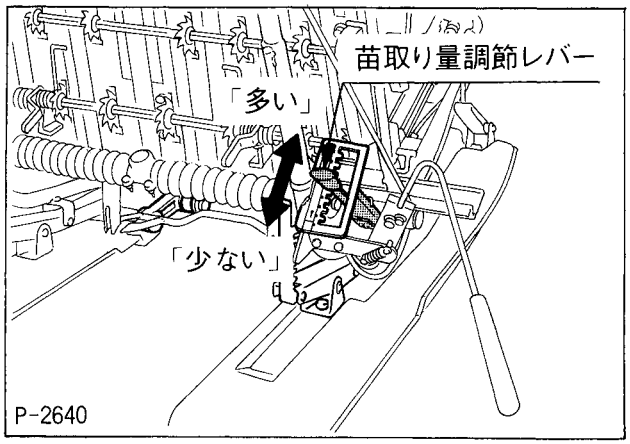
植付け作業を開始して植付け本数・植付け深さなどが希望どおりになっているかどうかをチェックし，希望どおりになっていなければそれぞれ調節してから連続植付けを行なってください。

◆苗取り量調節レバー

植付け本数の調節は，苗取り量調節レバーで行なってください。

“多くしたいとき”……レバーを上方にセットすると，植付け本数が多くなります。

“少なくしたいとき”……レバーを下方にセッすると，植付け本数が少なくなります。



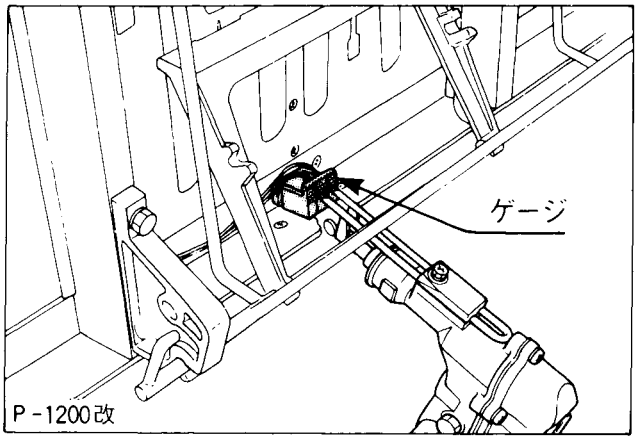
◆植付け爪ごとの植付け本数調節

注　意

＊植付け本数調節時は，エンジンを必ず止めて行なってください。

❶2本の植付け爪のうち，一方の爪の苗取り本数が，いつも多いとか少ないとかの現象が出ましたら，ゲージ合せを行なってください。
ゲージ合せの結果，特に多い爪又は少ない爪があれば，連結軸の取付けナットをゆるめて，ボルトを回し，植付け爪が苗のせ台の中に入る量を調節してください。

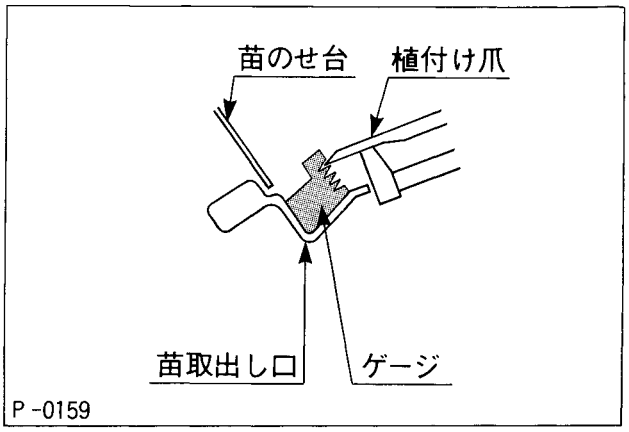
❷植付アームの爪取ボルトが接触しないことを確認してください。

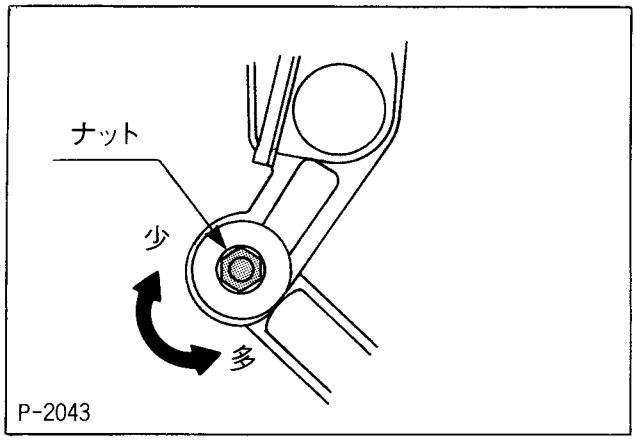


重　要

＊植付け本数は，育苗箱にまく種もみの量で決めるのが原則です。種まき時に十分検討してまき量を決めるようにし，たびたび植付け本数を調節することのないようにしてください。

＊最大取り量17mm以上にしないようにしてください。
苗取り量調節レバーを最も**“多い”**の位置にして，ゲージの一番上の溝に植付け爪先端を合わせてください。



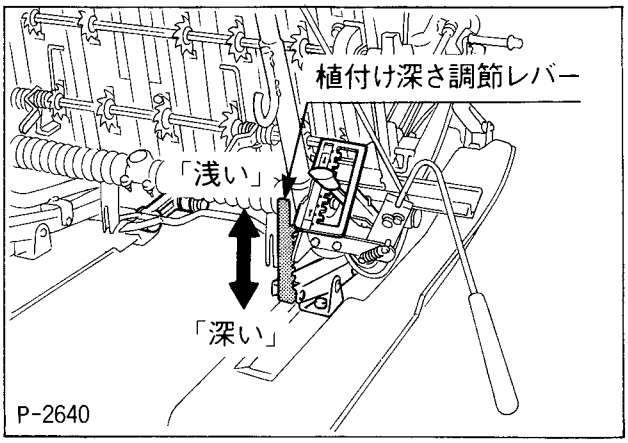


◆植付け深さ調節レバー

植付け深さの調節は，植付け深さ調節レバーで行なってください。

“浅い”……レバーを上方にセットすると浅植えになります。

“深い”……レバーを下方にセットすると深植えになります。



(1)植付け深さは，２～３cmが標準です。

(2)草丈の長い苗は幾分深いめに，短い苗は浅いめに調節してください。

重 要

＊左右２箇所のレバーを同じ位置に調節してください。

■苗ステーの調節

苗ステーは，苗床を軽く押えて苗の崩れ落ちを防止します。

次のような苗を使うとき，特に効果があります。

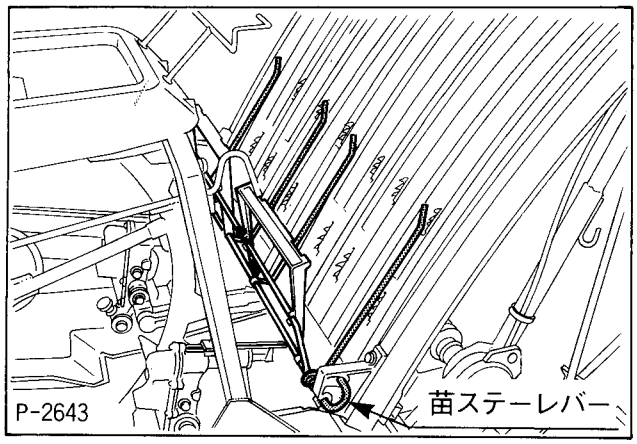
(1)根張りの悪い苗

(2)苗床が薄く，崩れやすい苗

◆苗の取出し

❶苗のせ台の苗ステーレバーを引き，上方に傾けますと苗の取出しが容易です。

❷苗ストッパなど使用するときも同じ要領でお使いください。



■苗ガイドの取外し方

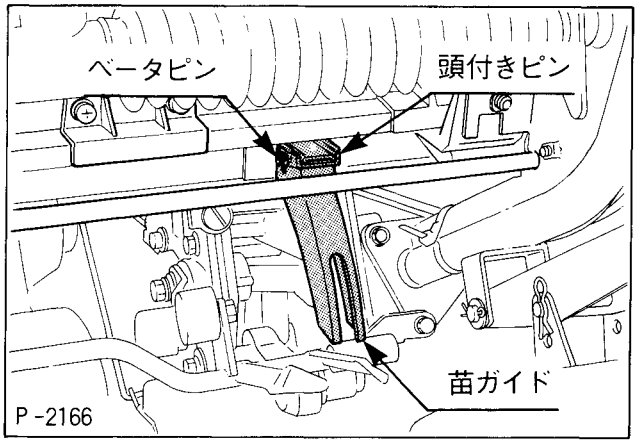
注 意

＊苗ガイドを取外すときは，エンジンを必ず止めてから行なってください。

苗が長く徒長ぎみのとき，苗ガイドを取外してお使いください。

❶ベータピンを外します。

❷頭付きピンを抜きます。



■ピタリックスアームの取外し方

注 意

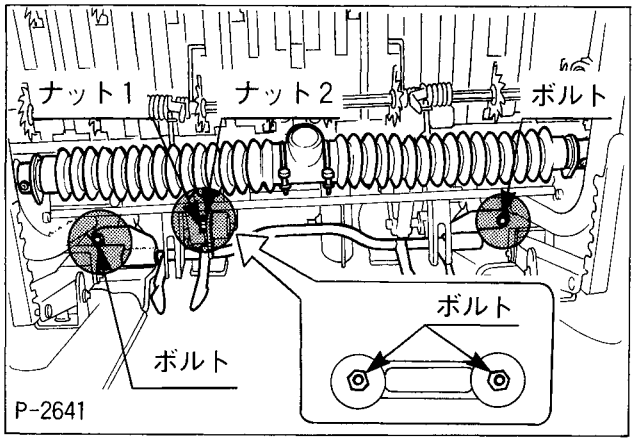
＊ピタリックスアームを取外すときは，エンジンを必ず止めてから行なってください。

深い水田や深水軟弱ほ場で使われると，ピタリックスアーム（土寄せ装置）が植付け姿勢を乱すことがあります。このようなときは，ピタリックスアームを取外してお使いください。

❶ナット１，ナット２をゆるめます。

❷ボルト２本を取外すとピタリックスアームが取外せます。

❸取外したボルト・ナットは大切に保管してください。



■鉄車輪

堅くて車輪がスリップするようなほ場では，鉄車輪の使用をおすすめします。

品　名	品　番	個　数
テツシャリン２	41272－9311－1	1

補 足

＊鉄車輪は，オプション部品です。購入先にご注文ください。

田植機の簡単な手入れと処置

各部の点検と交換

専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，購入先にご相談ください。

定期点検表に従って必ず定期点検を実施してください。

注　意

＊給排油・点検整備時は必ずエンジンを停止してください。
＊作業中は火気厳禁です。
＊機械は平たんな場所におき，安全を確認してから行なってください。

■点検・注油・調整一覧表

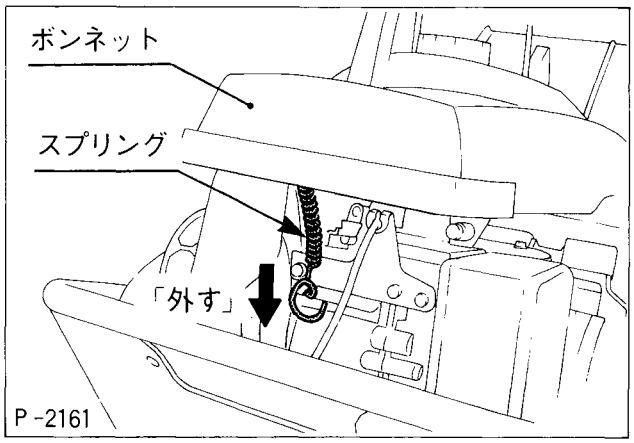
	項　　目	毎作業前	20時間	50時間	100時間	備　　考	参照ページ
エンジン部	燃料	○					7,8
	エンジンオイルの点検	○	△	△	△	クボタ純オイルG30 又はG20	27
	パイプ・ホース類の点検					２年ごと交換	28
	エアークリーナエレメントの清掃			○	○		28
	スパークプラグの清掃					毎シーズン始め	25
走行部	ミッションオイルの点検			△	△	クボタ純オイルスーパーUDT	28
	クラッチの調整					毎シーズン始め	26
植付け部	植付けチェーンケース	分解時にグリース補給				クボタスペアグリース （リチューム系）	購入先
	車輪チェーンケース	分解時にグリース補給					
	植付けアーム					毎シーズン始め クボタスペアグリース	29
	横送りネジ						
	植付け爪の交換調整	爪の曲り，破損時交換調整					29
その他	各ワイヤの点検調整					毎シーズン始め	26

■ボンネットの開けかた

注　意

＊中に回転物・高温部があり，ケガをするおそれがあるので，点検・調整などでボンネットを取外すときは，エンジンを必ず止めてください。点検・調整後はボンネットを必ず取付けてください。
開いたまま作業をすると……
振動でボンネットを破損することがあります。

ボンネット先端部の固定スプリングを外し，ボンネット先端部を，上方に引上げるとボンネットが開きます。



作業シーズン前後のメンテナンス

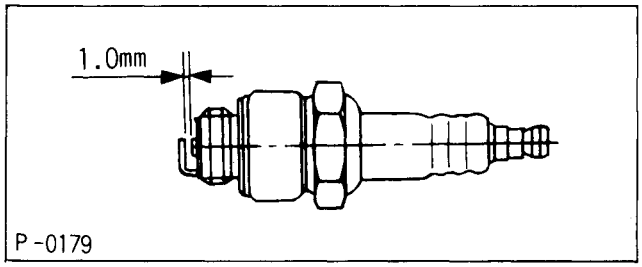
■スパークプラグのすきま

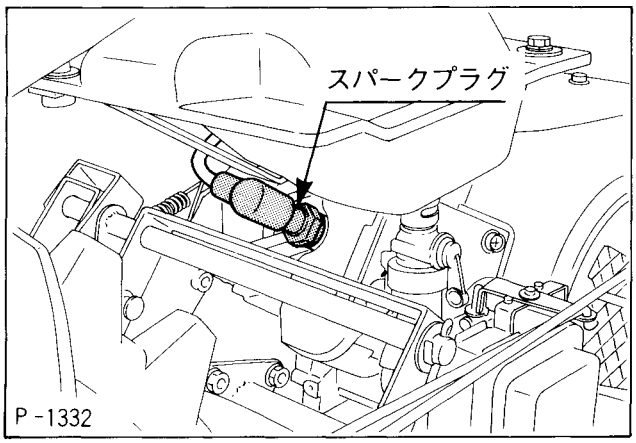
❶ボックススパナでスパークプラグを外してプラグに付着しているカーボンを取除き，
❷電極のすきまが1.0ｍｍになるよう調整してください。

重　要

＊スパークプラグを取付けるときは最初手でねじ込み，その後ボックススパナで締付けてください。最初からボックススパナで締付けると，シリンダヘッドのねじをつぶしてしまうことがあるので，十分ご注意ください。

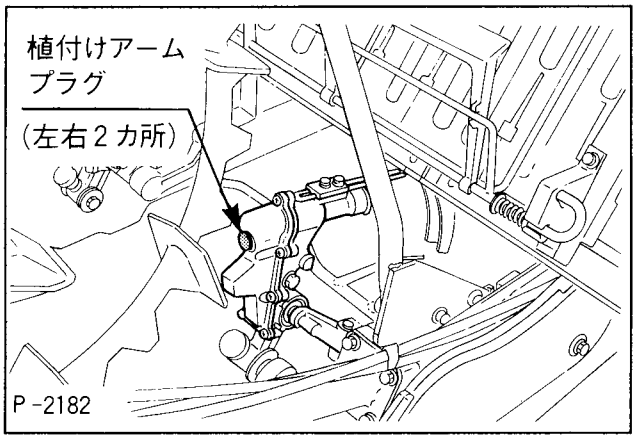
使用プラグ	NGK B-4H又はデンソーW14F-U
品　　番	13281－6771－1

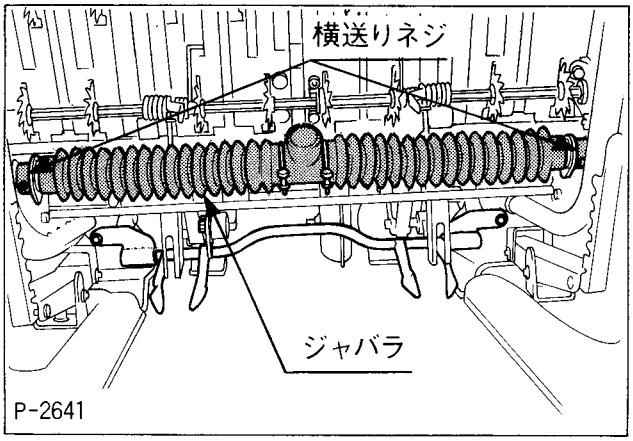


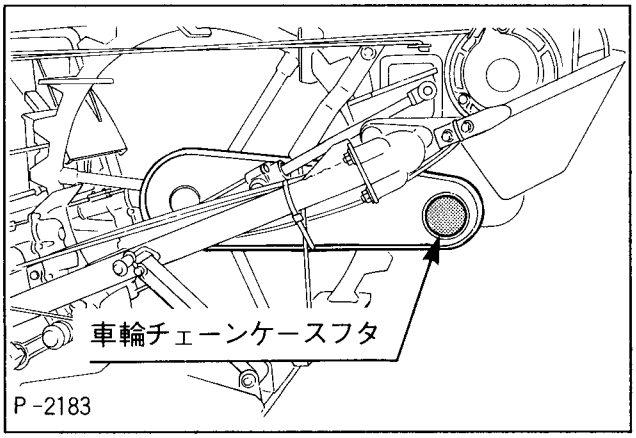


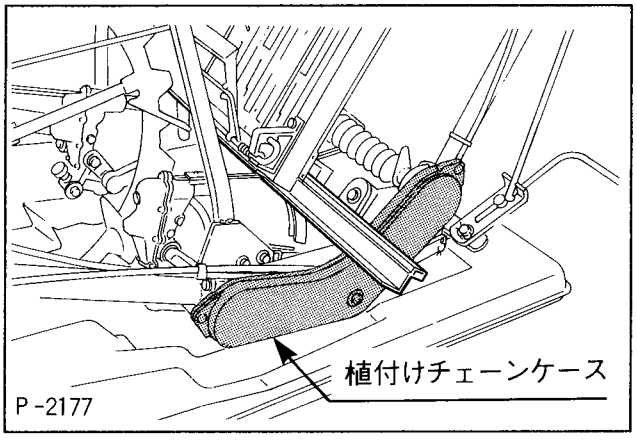
■グリースの補給

シーズンが終れば，次の箇所にグリースを補給してください。









各部の調整

注　意

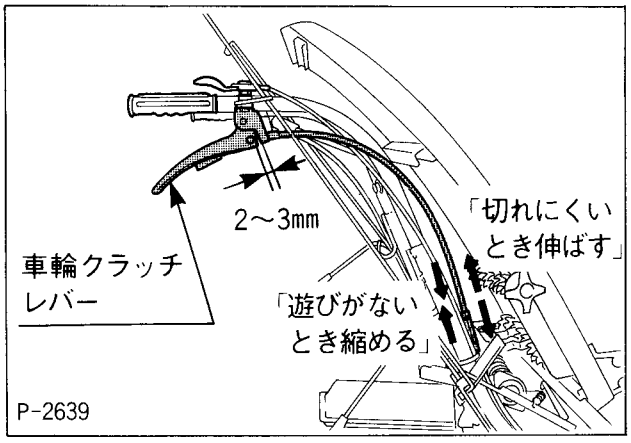
＊点検・調整するときは，必ずエンジンを停止してください。

＊機械は平たんな場所に置き，特に植付け部を他の物に当てないよう注意してください。

■車輪クラッチの調整

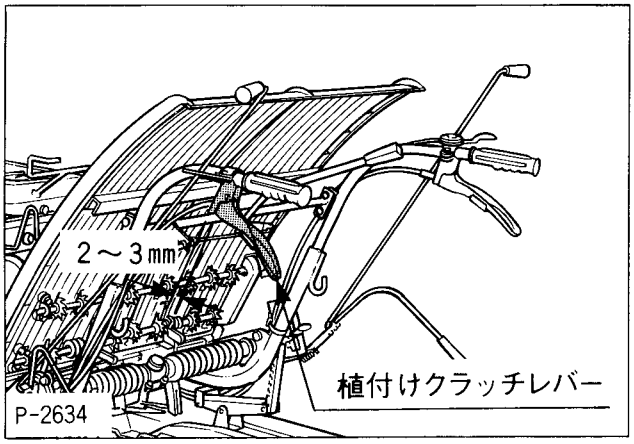
車輪クラッチレバーが**“切”**で確実にクラッチが切れ，レバーを**“入”**にしたとき，２～３ｍｍ程度の遊びがあるように調整してください。

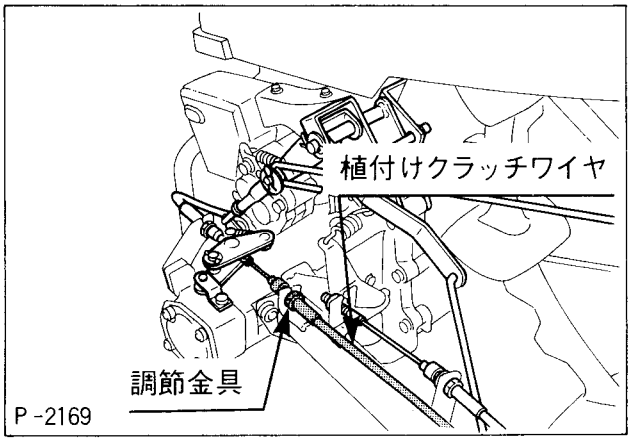
調整は，車輪クラッチワイヤの調節金具を伸縮させて行なってください。



■植付けクラッチの調整

植付けクラッチレバーが**“切”**で確実にクラッチが切れ，レバーを**“入”**にしたとき，２～３ｍｍ程度の遊びがあるように調整してください。
調整は，植付けクラッチワイヤの調節金具を伸縮させて行なってください。





毎日作業前

次の項目は**“作業前の点検について”**(7ページ)を参照してください。

◆燃料

■マフラ部の清掃

マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因となり危険です。
毎日作業前に点検し，きれいに取除いてください。

20時間目

■エンジンオイルの点検

“50時間毎”の項目を参照してください。

50時間毎

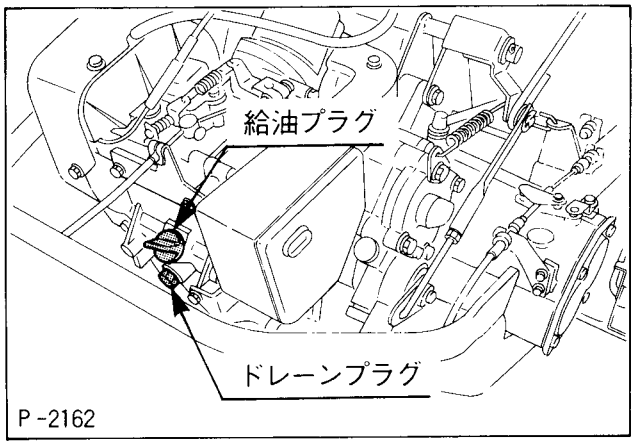
■エンジンオイルの交換

注　意

＊オイルを排出するときは，オイルが暖まっているのでヤケドをしないよう注意してください。

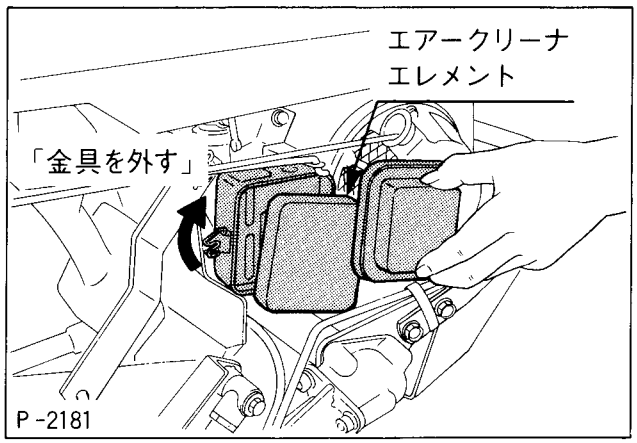
◆オイルの排出

暖機運転してから先ず給油プラグを外し，その後ドレーンプラグを外してオイルを排出します。



■エアークリーナエレメントの掃除

❶ウレタンエレメントを取出し，
❷エレメントを灯油か軽油でよく洗い，
❸エンジンオイルに浸して固く絞ってから，
❹元のように取付けてください。



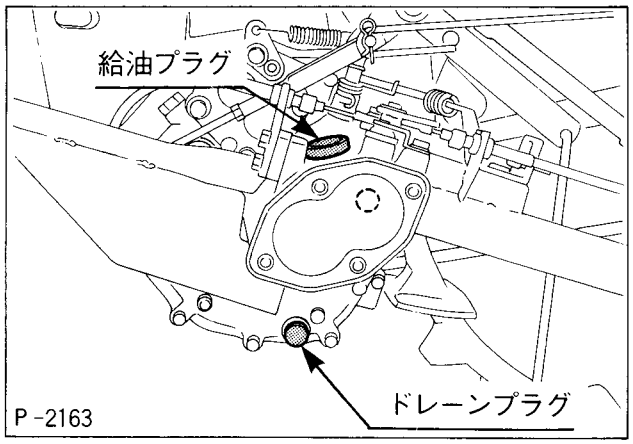
■ミッションオイルの交換

注　意

＊オイルを排出するときは，オイルが暖まっているのでヤケドをしないよう注意してください。

◆オイルの排出

暖機運転してから先ず給油プラグを外し，その後ドレーンプラグを外してオイルを排出します。



◆オイルの給油

ドレーンプラグを締付け，給油口から適量給油し，給油プラグを締付けてください。

2年毎

■燃料パイプの点検

注　意

＊燃料パイプが傷んでいると燃料漏れを起し危険ですので，常に点検しましょう。

燃料パイプなどのゴム製品は，使わなくても老化します。締付けバンドと共に2年ごと又は傷んだときに新品と交換してください。
パイプ類や締付けバンドがゆるんだり傷んでいないか，常に注意してください。

都度の整備

■分解時にグリース補給

次の項目はクボタスペアグリース（リチューム系）を分解時，購入先に依頼して補給してください。

◆植付けチェーンケース
◆車輪チェーンケース

■植付け爪の交換

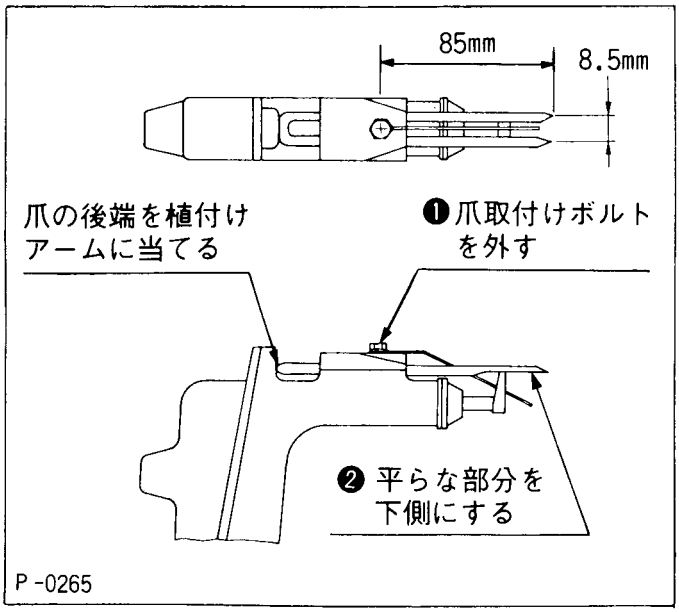
補　足

＊植付け爪，苗キーパは消耗品ですから，常に１セット予備として準備しておいてください。

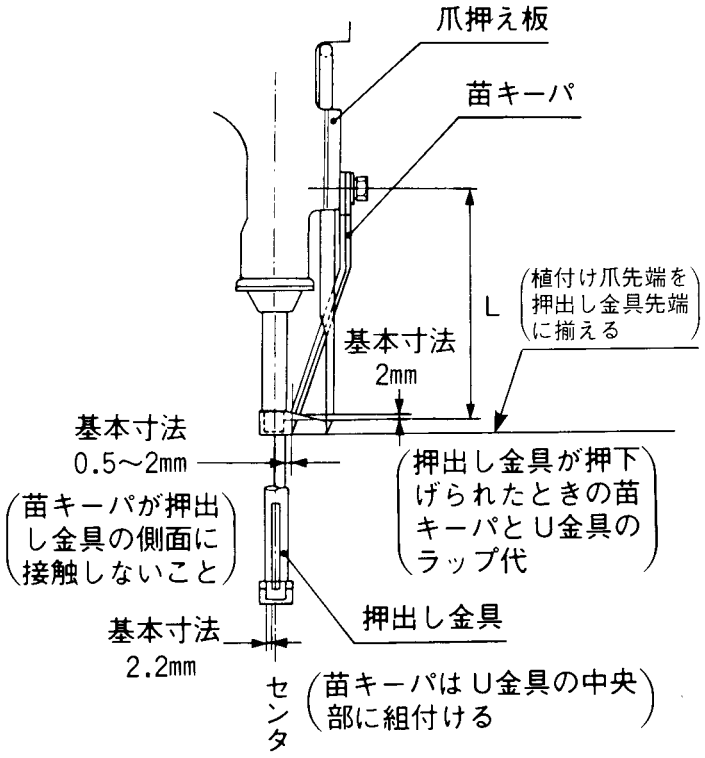
品　名	品　番	個　数
ウエツケズメ(K13)	41522－5121－0	２個／１台
ナエキーパ	41182－5123－1	２個／１台

植付け爪が摩耗すると植付け状態が悪くなるので，新しい爪と交換してください。
交換するときは，必ず苗キーパも同時に交換してください。

❶爪取付けボルトを外して爪を外します。
❷爪先端の平らな部分を下側にし，爪の後端を植付けアームに当るように取付け，ボルトを確実に締付けてください。



P－0265



P－1597

長期格納時の手入れ

注 意

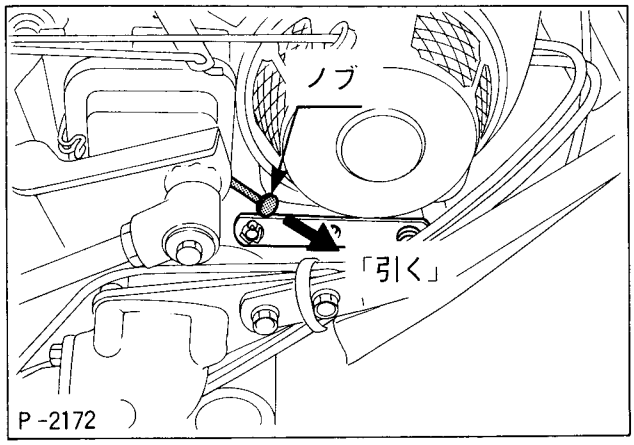
＊清掃する場合は，必ずエンジンを停止させてから行なってください。
＊エンジンが加熱している間は，シートをかけないでください。火災の原因になります。
＊燃料抜き取り時は，火気厳禁。

■使用後の手入れ

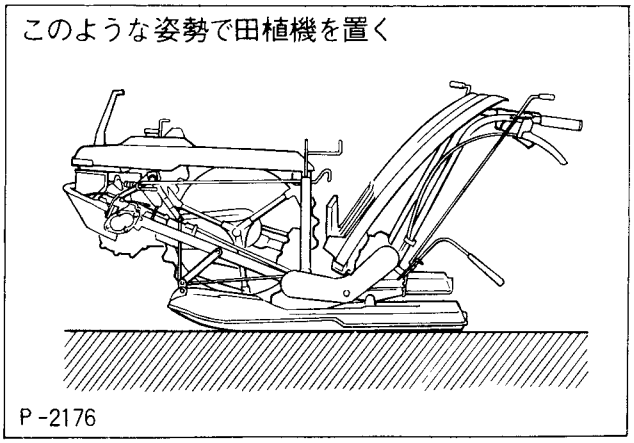
(1)各部に付いている土やゴミなどを洗い落し，水洗後は必ず水をふき取ってください。
(2)グリース塗付箇所にはグリースを，注油箇所には注油してください。
(3)植付け爪の先端など，錆やすい所にはグリースを塗ってください。
(4)各部のゆるみを調べ，増締めをしてください。

■長期格納時

(1)格納は，直射日光や雨の当らない風通しの良い場所を選んでください。
(2)燃料タンク内はパイプなどを使用して抜取り，気化器内の燃料は，燃料コックレバーを**“止”**にして，気化器のノブを手で引いて，古いガソリンを全部抜取ってください。



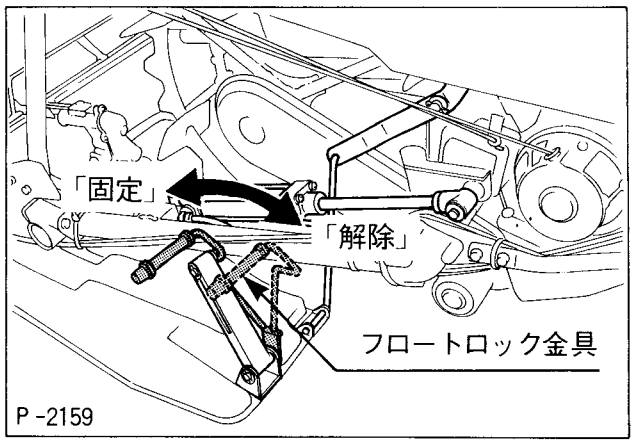
(3)植付け爪は苗取り直前の状態にし，植付け部は下げた状態にしてください。
(4)各クラッチレバーは**“入”**の状態にしておいてください。
(5)スロットルレバーは**“低”**の方へいっぱい回しておいてください。
(6)スタートハンドルを引張って，圧縮のある（重く手ごたえがある）位置で止めておいてください。
(7)田植機を保管又は放置するときは，機体を下げると安定します。

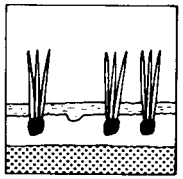
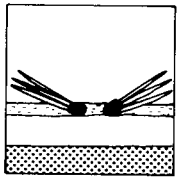
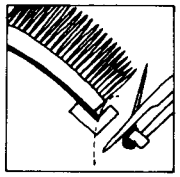


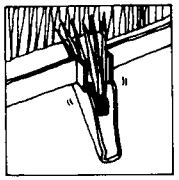
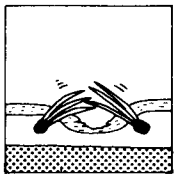
(8)手入れが済めば，必ず付属の田植機カバーをかけておいてください。

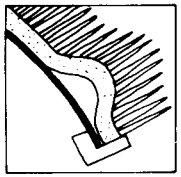
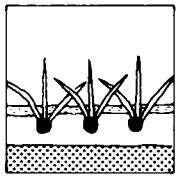
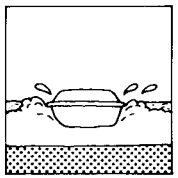
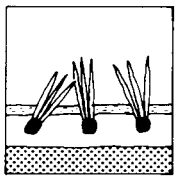
■田植機の置き方

❶油圧レバーを**“植付け”**にして**【HD仕様】**，車輪調節ハンドルで**【D仕様】**，機体を下げてください。
油圧レバーを**“固定”**にしてください。**【HD仕様】**
❷フロートロック金具を**“固定”**位置にし，フロートが上下に動かないようにしてください。



不調の内容	原　　因	処　　置
 欠株ができる。	ほ場 機械 浮き苗。 機械 苗 植付け爪が苗を取らない。 機械 苗 縦送りが悪い。	●各原因について，下記の不調の内容の当てはまる項目を参照。
	機械 植付け爪が摩耗している。	●新品と交換する。
	苗 苗にムラがある（播種ムラ）。	●ムラのない苗を使用する。
 浮き苗ができる。（苗が持上がる）	機械 植付け爪が摩耗している。	●新品と交換する。
	機械 植付け深さが浅過ぎる。	●植付け深さを深くする。
	機械 苗取り量が少ない。	●苗取り量を10mm以上にする。
	ほ場 水が多過ぎる。	①水を少なくする。②植付け速度を遅くする。
	ほ場 ほ場の土が軟らかい。	①ほ場を硬くする。②植付け速度を遅くする。 ③植付け深さをやゝ深くする。
	苗 苗の根張りが悪い。	●根張りのよい苗を使う。
	苗 床土が砂質でバラけやすい。	●苗床に水分を与える。
	ほ場 ほ場の土が硬い。	●植付け速度を遅くする。
 植付け爪が苗を取らない，又は，苗取りが不十分。	機械 苗取り量が少ない。	●苗取り量を多くする。
	苗 播種量が少な過ぎる。	●苗取り量を多くする。
	苗 播種ムラ，生育ムラがある。	●苗取り量を多くする。
	苗 苗床が厚過ぎる。	●苗床の底面を切落とす。切れない苗は使用しない。
	機械 植付け爪の間隔が広（狭）過ぎる。	①爪間隔を確認する。（29ページ参照）②新しい爪と交換する。
	機械 植付け爪が摩耗している。	●新品と交換する。
	苗 苗床が軟らか過ぎる。	●苗床を乾かす。
	機械 縦送りが悪い。	●不調の内容「縦送りが悪い」の項を参照。

不調の内容	原　　因	処　　置
苗の縦送りが悪い。	苗　苗床の幅が広過ぎる。	●育苗箱の中で横方向に振動を与え，幅を狭くする。
	苗　苗床が厚過ぎる。	●苗床の底面を切落とす。切れない苗は使用しない。
	苗　根が張り過ぎている。	●苗床の下に伸びた根を切る。
 苗取り出し口に苗が溜まる。	苗　苗床が軟らか過ぎ，苗を十分に取らない。	●苗床を乾かす。
	苗　苗床が軟らか過ぎたため，横送りによって苗床が変形している。	●苗床を乾かす。
	苗　苗床がバラけて，土がしゅう動板のしゅう動面に溜まる。	●苗床に水分を与える。
	機械　植付け爪の摩耗で,苗が十分取れない。	●新品と交換する。
	機械　植付け爪が２本そろっていない。	●新品と交換する。
	機械　植付け爪の間隔が広過ぎる。又は狭過ぎる。	●爪の間隔を確認する。 （29ページ参照）
	苗　苗床の根が張り過ぎている。	●苗床の下に伸びた苗を切取る。
	苗　苗床が厚過ぎる。	●苗床の厚みが４cm以下の苗を使用する。
 フロート通過跡に泥水が流れ込み，植付けた苗が倒れる。	ほ場　ほ場の土が軟らか過ぎる。	①ほ場を硬くする。
	ほ場　水が多過ぎる。	①水を少なくする。 ②植付け速度を遅くする。 ③土寄せ装置を取外す。（特に不調のとき）

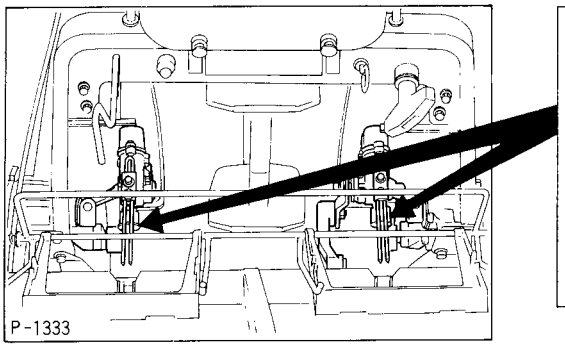
不調の内容	原　　因	処　　置
 苗のせ台から苗がずり落ちる。	苗　苗床が薄過ぎる。	●苗床の厚さが2cm以上の苗を使う。 ●苗ステーを正しくセットする。
	苗　苗床が軟らか過ぎる。	●苗床を乾かす。
 植付けた苗がバラける。（まとまりが悪い）	機械　押出し金具が苗を十分押出さない。	●押出しバネを交換する。
	機械　植付け爪の間隔が広過ぎる。	●爪の曲がりを伸ばし,間隔を確認する。 (29ページ参照)
	機械　植付け爪が摩耗している。	●新品と交換する。
	苗　苗床が乾き過ぎている。	●苗床に水分を与える。
	苗　苗の根張りが悪い。	①根張りのよい苗を使う,②植付け速度を遅くする。
	ほ場　ほ場が硬過ぎる。	●ほ場を軟らかくする。
	機械　植付け速度が速過ぎる。	●植付け速度を遅くする。
	機械　苗取り量が少な過ぎる。	●苗取り量を多くする。
	苗　根張りの悪い苗を,ぬらし過ぎている。	●苗床を乾かす。
	苗　苗と苗との合わせ目がぴったり合っていない。	●苗補給をていねいに行なう。
	機械　苗ガイドに土が詰まっている。	●土を取除く。
 フロートが泥を押す。	ほ場　ほ場の土が軟らか過ぎる。	●ほ場を硬くする。
	機械　感知圧が高過ぎる。	●感知圧を調節する。
 植付けた苗の姿勢が悪い。	機械　押出し金具が苗を十分押出さない。	●押出しバネを交換する。
	機械　植付け爪が摩耗している。	●新品と交換する。
	苗　苗の根張りが悪い。	●根張りのよい苗を使う。
ピッチングが発生する	機械　感知圧が低過ぎる。	●感知圧を調節する。

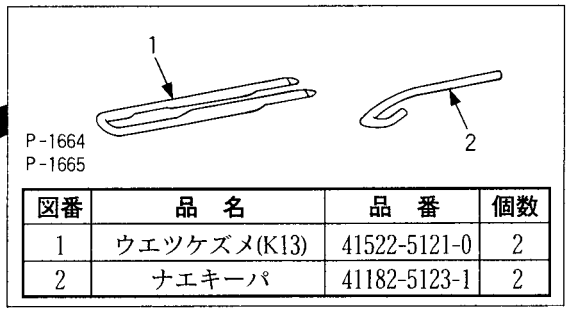
付　表

主要諸元

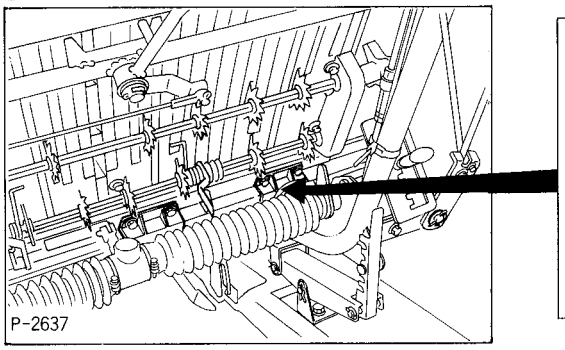
型式			SP-1					
区分			JP1-HD14	JP1-HD	JP1-HD18	JP1-D14	JP1-D	JP1-D18
機体寸法	全長	(mm)	1720					
	全幅（作業時）	(mm)	880（1050）			880（880）		
	全高	(mm)	920			925		
重量		(kg)	67			65		
エンジン	名称		クボタGS90-2PN					
	形式		空冷４サイクル単気筒立形ガソリンエンジン					
	総排気量	(cc)	84					
	出力／回転速度	(PS/rpm)	1.2/1600（最大2.2）					
	使用燃料		自動車用無鉛ガソリン					
	燃料タンク容量	(ℓ)	約1.7					
	点火方式		無接点マグネト点火					
	始動方式		手元リコイルスタータ					
走行部	車輪上下調節		油圧式			手動式		
	車輪 種類		ラグ付きゴム車輪					
	車輪 外径	(mm)	600					
	変速段数	(段)	前進2					
植付部	植付条数	(条)	2					
	植付条間	(cm)	30					
	植付株間	(cm)	14	16	18	14	16	18
	植付株数	(株/3.3㎡)	80	70	60	80	70	60
	植付深さ	(cm)	1.0～4.5（5段）					
	一株本数調節方法		縦かき取り量8～18mm調節による					
植付速度		(m/秒)	0.2～0.4（1速），0.4～0.7（2速）					
路上走行速度		(km/h)	2.9					
作業能率		(分/10a)	62					
苗の条件	苗の種類		マット苗					
	草丈	(cm)	10～25					
	葉令	(葉)	2～4.5					
予備苗とう載数		(箱)	1			—		
装備			線引きマーカ			—		
安全鑑定番号			19034					

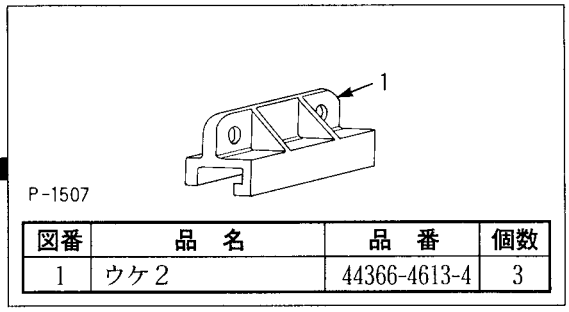
主な消耗部品一覧表



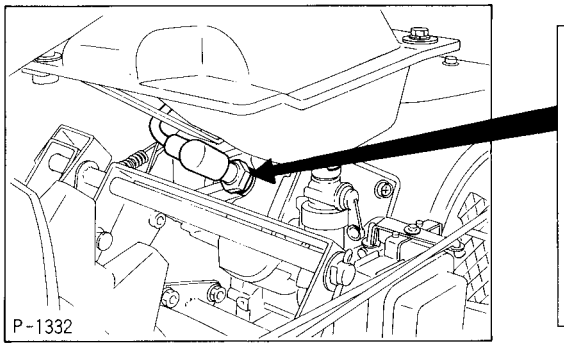


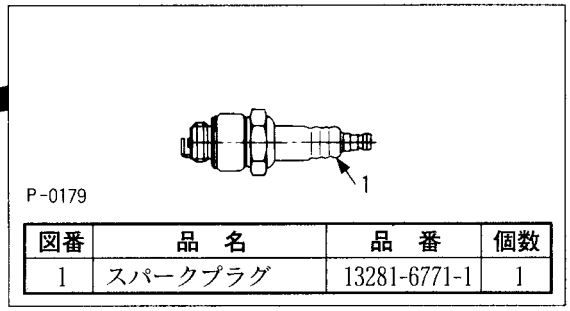
図番	品　名	品　番	個数
1	ウエツケズメ(K13)	41522-5121-0	2
2	ナエキーパ	41182-5123-1	2





図番	品　名	品　番	個数
1	ウケ２	44366-4613-4	3





図番	品　名	品　番	個数
1	スパークプラグ	13281-6771-1	1

付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

- ●保証書　1
- ●取扱説明書　1
- ●植付け爪　2
- ●13スプロケット　1
- ●苗すくい板　1
- ●ゲージ　1
- ●じょうご　1
- ●工具
  - 17－21ボックススパナ　1
  - ＋－ドライバ　1
  - 8－10スパナ　1
  - 12－14スパナ　1
  - 14－17スパナ　1
  - プライヤ　1
  - 工具袋　1

オプション部品

品　番	品　名	適用機種		備　考
		JP1-D	JP1-HD	
41401－9310－2	ギヤ，キット（カブマ18）	○	○	株間18cm
41401－9320－2	ギヤ，キット（カブマ14）	○	○	株間14cm
41272－9311－0	シャリン2	○	○	鉄車輪
PC200－4615－2	ナエノセダイ(エンチョウ)	○	○	延長苗のせ台
41522－9850－0	ウエツケゾメ，キット(I 13)	○	○	ステンレス板爪
41252－9304－0	サイドマーカアッシキット	○	—	HD仕様は標準装備
41272－9911－0	コマ	○	○	

クボタ純オイル

■オイルは クボタ純オイル をお使いください。

オイルは，田植機の開発研究から生まれたクボタ純オイルを，必ずお使いください。市販のオイルを御使用になりますと，あなたの大切な田植機の寿命を縮めることがあります。

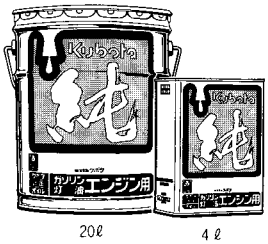
お買求めは，購入先またはＪＡ農協へご用命ください。

●エンジンには……

■クボタ純オイル

G30又はG20

（ガソリン・灯油エンジン用）

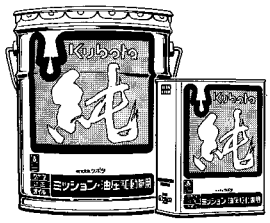


Z-1022　20ℓ　4ℓ

●田植機本体には……

■クボタ純オイル スーパーUDT

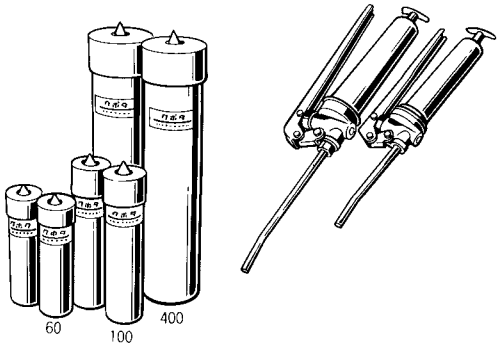
（ミッション用）



Z-1021　20ℓ　4ℓ

●グリースアップには……

■クボタスペアグリース



Z-1026　60　100　400

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点は まず，購入先へ ご相談ください

おぼえのため，記入されると便利です

購入先名	担当	電話（　　）　　ー

ご購入日	型式名	区分

車台番号（製造番号）	エンジン型式　　エンジン番号

万一ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

クボタ機械サービス株式会社

北海道営業技術推進部：電(011)662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北16丁目１番１号
秋田営業技術推進部：電(018)845-1644	〒011-0901	秋田市寺内字大小路207-54
仙台営業技術推進部：電(022)384-5162	〒981-1221	名取市田高字原182番地の１
東京営業技術推進部：電(048)862-1588	〒338-0832	さいたま市桜区西堀５丁目２番36号
新潟営業技術推進部：電(025)285-1263	〒950-0992	新潟市上所上１丁目14番15号
金沢営業技術推進部：電(076)275-1121	〒924-0038	松任市下柏野町956-１
名古屋営業技術推進部：電(0586)24-5111	〒491-0031	一宮市観音町１番地の１
大阪営業技術推進部：電(06)6470-5860	〒661-8567	尼崎市浜１丁目１番１号
岡山営業技術推進部：電(086)279-4511	〒703-8216	岡山市宍甘275番地
米子営業技術推進部：電(0859)33-5011	〒683-0804	米子市米原７丁目１番１号
株式会社四国クボタ 営業技術課：電(087)874-8500	〒769-0102	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３
福岡営業技術推進部：電(092)606-3725	〒811-0213	福岡市東区和白丘１丁目７番３号
熊本営業技術推進部：電(096)357-6181	〒861-4147	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１
本社営業技術部：電(072)241-8092	〒590-0823	堺市石津北町64番地

株式会社クボタ

機械札幌事務所：電(011)662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北16丁目１番１号
機械東日本事務所：電(048)862-1121	〒338-0832	さいたま市桜区西堀５丁目２番36号
機械西日本事務所：電(06)6470-5970	〒661-8567	尼崎市浜１丁目１番１号
機械福岡事務所：電(092)606-3161	〒811-0213	福岡市東区和白丘１丁目７番３号

Kubota

安全宣言

安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が
一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

LEMA
陸内協排出ガス自主規制適合

このラベルは、(社)日本陸用内燃機関協会
の小形汎用ガソリンエンジン排出ガス自主
規制に適合していることを示しています。

株式会社クボタ
〒556-8601
大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号
TEL.06-6648-2111
FAX.06-6648-3862

品番　PC001-9151-1